2020 年度 自己点検・評価報告書

学校法人 高木学園

福岡国際医療福祉大学

目　次

１．2020 年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって・・・・・・・・・ 1
２．各学科等の自己点検・評価報告書
（１）理学療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
（２）作業療法学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
（３）視能訓練学科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
（４）言語聴覚専攻科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
３．各委員会等の自己点検・評価報告書・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
４．中期目標・中期計画（2020-2024）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
５．資料
概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
学生生活調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
卒業時アンケート報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程・・・・・・・・ 52
2020 年度自己点検・評価委員会委員名簿　・・・・・・・・・・・・ 53

付、自己点検・評価資料集 2020（ザ・フクオカ第 2 号）

１．2020 年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって

2020年度自己点検・評価報告書の刊行に当たって

本学には理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科で構成される医療学部があり、また大卒者を対象とした２年制の言語聴覚専攻科があります。医療学部の定員は120名です。選抜試験の方式は総合型選抜（従来のＡＯ入試に筆記試験を追加)、特別選抜、高校推薦、一般、共通テスト利用であり、志願者556名、合格者225名、全体の競争倍率は2.47でした。昨年度より順調に志願者数も競争倍率も増加しています。言語聴覚専攻科の定員は40名であり、入学者は28名にとどまりました。言語聴覚専攻科では、21名の第一期修了生を輩出しました。17名が国家試験に挑戦し15名が合格、合格率は88.2％（全国平均69.4％）でした。

2020年度の大きな問題は、世界規模で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が爆発的に拡大したことであります。対面授業ができなくなり、学生の登校は制限され、大学は火が消えたようでした。しかし、本学はＩＣＴ教育に力を入れていましたので４月より遠隔授業を実施し、学年暦を変更することなく当初の予定通りに授業を終えることができました。６月には対面授業を再開し、予定されていたすべての講義を問題なく終了しました。また、２年生を対象とした海外研修も中止となりました。しかし、本学はグローバルに活躍できる人材育成を目指していることから、海外の施設や大学と協議し、オンラインによる研修を実施しました。

学習以外、例えば運動会や文化祭なども新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得ませんでした。部やサークルの活動も制限され、大学生活に多くの支障が生じています。2021年度には新型コロナウイルス感染症が終息し、運動部の部・サークル活動が活発化する可能性がありますが、それにあたっては大学近隣の広いスペースの確保が必要であると思われます。

地域住民を対象とした公開講座も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、開催を見送った講座も多くありました。

学生支援面では各クラス２名の担任を配置し、学年を１グループ６～８名の少人数に分けアドバイザー担当教員によるきめ細かい指導を行いました。その結果、退学者数は昨年度を下回ることとなりました。一方で、多くの学生がアルバイトに従事している中で、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮する学生がいます。本学において経済的な支援の必要性を感じます。

新型コロナウイルス感染症の影響で研究活動にも大きな影響が出ています。多くの学会はオンラインでの開催又は中止となり、研究活動はやや低迷したと感じています。新規の科学研究費の獲得件数は４件にとどまりました。それでも科学研究費の採択状況は 57％であり、全国平均の 25-30％程度に比べるとかなり高いと思われます。特筆すべきは科学研究費基盤研究（Ｂ）が一件採択されたことです。2021 年度は科学研究費を含む競争的外部資金の獲得数をさらに増やし、また大型の科学研究費（基盤研究ＡやＢ等）の獲得を目指さなければならないと思っています。教職員の教育・研究への意識を高めるため、ＦＤ・ＳＤ等の研修会は、ＦＤ委員会主催で４回、他の委員会との合同で 12 回、国際医療福祉大学管理分野合同ＦＤ研修会として 20 回と頻回に行われました。

運営面においては、多くの委員会活動が行われました。委員会で検討された案件の中には予算の面で学校法人との協議が必要な案件があり、すぐには解決できない事案も多いのは事実ですが、委員会の審議決定事項の多くは管理運営委員会に報告、審議され大学運営は比較的速やかになされていると理解します。例えば、情報教育・教務委員会で議論になっているＬＭＳ（ラーニングマネジメントシステム）は、2021 年度の国際医療福祉大学福岡看護学部の本学への移管に伴い、新しいシステムの導入が決定しています。

本学が更なる発展を図るためには、中期計画の策定が必要であります。2020 年度には夢と希望を持てる大学作りのための中期計画策定委員会を設置し、本学の将来を見据えた検討を行っています。５年後にはリハビリテーション系だけでなく全ての医療を包括した総合的医療系大学の構築を図るため、2021 年 4 月の国際医療福祉大学福岡看護学部の移管に加え、４年制言語聴覚学科の新設や大学院の設置も検討に入り、目標に向かって一歩ずつ前進しています。

福岡国際医療福祉大学
学長　今泉　勉

２．各学科等の自己点検・評価報告書

２．各学科等の自己点検・評価報告書

（１）理学療法学科

１．2020 年度　自己点検・評価

１）教育面

理学療法学科の卒業要件単位数は 126 単位以上であり、そのうち 22 単位が臨地実習（「基礎実習Ⅰ」「基礎実習Ⅱ」「検査測定実習」「評価実習」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「地域理学療法学実習」）となっている。

開学 2 年目である 2020 年度は、1 年次の「基礎実習Ⅰ」と「基礎実習Ⅱ」を実施し、コロナ禍の実習であったため、学内実習を多く取り入れ対応することとなった。2 年次の「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」は新型コロナウイルス感染症の影響により海外現地での実習は中止となり、オンライン講義で代替することとなった。その他講義は、6 月までは Zoom を用いた遠隔授業を実施しその後対面授業へと移行することで、当初の学年暦どおりのスケジュールで進めることができた。

２）研究面

2020 年度の理学療法学科教員の研究実績として、英文論文 9 本（うち筆頭論文 4 本）、和文論文 1 本、その他（総説）1 本の学術論文があった。学会発表は 7 演題、講演活動は 2 題であった。科学研究費は「基盤研究 B」「若手研究」の 3 件が採択され、加えて外部研究費助成の 1 件を獲得した。

多くの学会が新型コロナウイルス感染症の影響で中止や Web 開催等の規模縮小となり、学会発表等の本数の減少につながっている。一方で、学内での教員の研究活動は活発に行われており、教員が互いを刺激し合って研究活動を進めることができている。

今年度 1 名の博士号取得があり、これをもって理学療法学科全教員が博士号取得者となった。

３）学生支援面

昨年同様、各学年に 2 名の担任教員を配置し学年運営を行った。また、各学年を 6 つのアドバイザーグループに分け、グループごとに担当教員を配置した。学生の個別サポートは主にアドバイザーグループで行い、個別面談及び成績不良学生のサポートを実施した。心理面のフォローが必要な学生に対しては、学年担任が学生相談室及び保護者と連絡を取りながら慎重に対応した。

４）FD 活動

学科内の FD 活動として、各教員が持つ研究に関する専門知識を、勉強会を通じて共有した。また、全学で開催された FD 研修会に積極的に参加し、各教員のスキルアップにつなげた。

５）国際性

Web を通じた遠隔形式のアジアリハビリテーション学会を本学発信で 2 回実施した。参加国は中国、韓国、ミャンマー等であり、積極的な議論が展開された。

新型コロナウイルス感染症の影響により海外への渡航が制限されていることから、教員の海外での学会参加や他大学との交流はできなかった。しかし、Web を用いた海外交流は可能であり、現状の制限が継続されるのであれば、今後はより活発に Web を用いた海外交流を行う必要がある。

６）公開講座等

新型コロナウイルス感染症の影響により、理学療法学科の公開講座は開催されなかった。

７）今後の課題

新型コロナウイルス感染症の「緊急事態宣言」期間もあり、その対応に遁走した 1 年であった。2021 年度後半より本格的な臨地実習が開始される予定である。実習施設の確保が課題であるが、コロナ渦の鎮静が見込めないため、対応策を検討する必要がある。

２．2021 年度の計画（目標）

・「検査測定実習」「評価実習」「臨床実習Ⅰ」「臨床実習Ⅱ」「地域理学療法学実習」における実習施設の確保
・「全国リハビリテーション学校協会　第 34 回教育研究大会・教員研修会」の開催
・「卒業研究」に向けた学生への研究指導の充実
・教員の研究活動に係る環境の整備と充実

（２）作業療法学科

１．2020 年度　自己点検・評価

１）教育面

本学の基本理念・教育方針に基づき、「科学的・創造的探究心を持ち、作業療法の実践に必要な、基礎的及び専門的な知識・技術の学修」を作業療法学科のカリキュラム・ポリシーの一つとしている。これらを達成するために、カリキュラム内容・講義内容・臨地実習の方法論、国家試験対策等の検討を行っている。特に、臨地実習と国家試験対策については、毎月定例の臨床実習・国試対策会議を行った。また、グループ施設での臨床実習におけるグループ養成校間の調整を図るため、OT3 校臨床教育協議会を行った。

学生の在籍者数は、2021 年 3 月 19 日時点で 1 年生 44 名、2 年生 46 名である。2020 年度の学籍異動は、退学者 0 名、除籍者 1 名（進路変更）、留年者 0 名（留年決定者 1 名）であった。

２）研究面

競争的資金について、外部研究費は新規 1・継続 2、学内研究費は新規 0 であった（表 1）。

研究成果について、英文論文数は筆頭（1）・共著（8）、和文論文数は筆頭（7）・共著（12）、であった。また、学会発表数は国内（18）・海外（1）であった（表 2）。

表 1　競争的資金の種別ごとの採択者

競争的資金種別	新規	継続
外部研究費	1	2
学内研究費	0	－

表 2　研究成果

論文数				学会発表数	
英文		和文			
筆頭	共著	筆頭	共著	国内	海外
1	8	7	12	18	1

３）学生支援面

アドバイザーグループ（AG）は、1・2 年生混合の 8 グループを編成し、それぞれに担当教員を配置した。活動目標は学習支援・生活支援・キャリア支援を柱とし、グループ毎に立案した計画に沿って活動した（表 3）。詳細は報告書を参照（別添;AG 活動報告 2020）。

表 3　AG 活動計画

担当 AG	活動計画の概要
菅原	非利き手動作の理解
丹羽	学生によるﾐﾆ講義
松田	他の人の勉強方法を知る
多賀	映画で学ぶ障害理解

担当 AG	活動計画の概要
中薗	障がい者ｽﾎﾟｰﾂを知る
佐野	積極的な先輩後輩の交流活動
木村	OT の仕事内容を知る-ﾌﾗﾝｽの OT-
吉田	ｽﾄﾚｯﾁ・心身機能・OT との関係

年 1～2 回の個別面接を行い、学生の生活状況や修学に関する意欲・習慣、メンタル面を把握するように努めている。さらに必要に応じて、定期的な個人面接を実施し、面談回数の見直し、保護者への連絡及び面談等、個々の学生の状況に合わせた対応を行っている。

４）ＦＤ活動

学生指導における重要な要素であるアドバイザー制度や教授法を中心に、計 5 回実施した。

① 実技授業における衛生管理（4/9、プロパー会議後、吉田助教）
② 国家試験対策の流れ（5/28、プロパー会議後、丹羽教授）
③ アドバイザー活動の行動目標（6/19、プロパー会議後、松田准教授）
④ 卒業研究指導（12/24、プロパー会議後、佐野講師）
⑤ 3D プリンタ活用の基礎（3/17、3D プリンタ納品時、納品業者）

５）国際性

国際医療福祉大学九州地区留学生サポートセンター主催の「留学生オンライン交流会」が以下の内容で実施され、1 年生 2 名（中国人留学生、日本人学生）と多賀准教授が参加した。

・日程：12 月 26 日(土)10 時～12 時
・場所：国際医療福祉大学福岡看護学部 1 号館 402 号室
・内容：年賀状作り＆漢字一文字習字、世界の年越し事情、DAZAIFU 参拝、大合唱など

2 年次の「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」は新型コロナウイルス感染症の影響により海外現地での実習は中止となり、オンライン講義で代替することとなった。

６）公開講座等

入試広報課と連携して 2020 年 11 月 7 日(土)に地域公開教室を開催した。メインテーマは「高齢者の健康～認知編～」。講演内容（講師）は、①認知症の予防と診断（尾籠晃司教授・医師・本学作業療法学科）、②認知症の方への関わり方と家族支援（吉永明史助教、池下博紀助教・言語聴覚士・本学言語聴覚専攻科）であった。

７）今後の課題

「臨地実習に対する病院側の回答が遅延」

2021 年度は「評価・検査測定実習」(3 年次後期)、2022 年度は「総合実習」を実施する。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により臨地実習に対する病院側の回答が遅延しており、「臨地実習施設の確実な確保」が引き続きの課題である。また、「臨地実習の方針・方法について実習指導者と共有」を図ることを目的に、臨地実習指導者会議（仮称）を計画している。

２．2021 年度の計画（目標）

① 臨地実習施設の確実な確保
② 臨地実習の方針・方法について実習指導者と共有
③ アドバイザー制度を活用した学習・生活・キャリア支援

（３）視能訓練学科

１．2020 年度　自己点検・評価

１）教育面

本学のカリキュラム・ポリシーに沿って授業を展開し、成績判定を行った。実技科目では新型コロナウイルス感染症の対策と学修理解度をより高めることを目的に、小グループの体制を構築し専任教員が一丸となって指導に従事した。成績判定については、小テスト、レポート、実技試験、定期試験の他に、口頭試問を取り入れることで多角的に評価できるように工夫した。また、必要に応じて週 3 回の実技指導の補習や授業及び再試験者を対象とした補講、自主学習会の開催等のサポート体制を強化することで学修到達度を高めた。

２）研究面

本年度の業績として、著書 7 編、原著 15 編、総説 2 編、講演 5 件、学会発表 25 演題であった。学内研究費として一般研究 A が 2 件が 1 件採択され、2021 年度国際医療福祉大学学会で報告がなされる予定である。

３）学生支援面

アドバイザーグループの活動を通して、上級生が下級生に対して履修指導や学生生活の相談等の個別サポートを行った。また、授業を複数回欠席した場合や、本試験や成績などで問題のある学生に対して密に連絡をとり、状況を把握しながら問題が深刻化する前に対応するよう努めている。具体的には個別面談を積極的に実施し、一人一人に寄り添いながら学習面や学生生活のサポートを行っている。場合によっては心理カウンセラー（公認心理士）の先生とも連携を取っている。さらに、必要に応じて保護者と連絡を取りながら学生支援を行い、深刻な成績不良者に対しては学科長・担任・保護者・学生の面談を実施した。

４）ＦＤ活動

学科全体会議の日程に合わせてアドバイザー制に関しての FD 研修会を実施し、アドバイザー制の意義とその活動内容などについて各教員の理解を深めた。配慮の必要な吃音症の学生がおり、理解や対応についての話し合いを頻繁に実施した。

５）国際性

2 年次の「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」は新型コロナウイルス感染症の影響により海外現地での実習は中止となり、オンライン講義で代替することとなった。

６）公開講座等

昨年度 2 回開催された視能訓練士セミナーは、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。今後の開催について、その対応を留意した上で計画を練っていきたいと考えている。

７）今後の課題

今後 4 学年を同時に指導する場合には現状では教員のマンパワーが不足しており、2021 年度から新しい教員 1 人を確保したが、さらに人員を確保し、質の向上を図る事が必要である。2021 年度から臨地実習が始まることもあり、グループ関連施設だけでは実習先が不足しており、様々な実習施設との交流を促進し、実習の質向上を図る。

２．2021 年度の計画（目標）

国家試験合格率 100%を達成するために、学習面におけるサポート体制を構築していく。さらに 2021 年度から始まる 3、4 年次の卒業研究の指導強化に努める。また、外部研究費の獲得等による教員自身の研究活動の促進を図ることで、本学科のブランド力を高めていく。

さらに、学科独自のイベントを企画して 1 年生と 2 年生の縦と横のつながりを深め、学科の一体感を構築していきながら更なる円滑な学科運営を目指す。

（４）言語聴覚専攻科

１．2020 年度　自己点検・評価

１）教育面

教育方針・目標は、豊かな人間性と科学的な思考力、専門的な知識と技術、専門職としての価値観を修得し、言語聴覚障害児者が抱える問題を的確に解決できる高度臨床実践能力を備えた言語聴覚士を 2 年で育成することである。専門基礎科目と専門科目について、関連する内容を継続して学べるよう配置し、カリキュラムを作成した。2021 年 3 月 31 日の在籍者は 2019 年度入学生（1 期生）21 名、2020 年度入学生（2 期生）26 名の計 47 名である。

２）研究面

本年度の研究業績及び研究費申請、採択件数は以下のとおりであった。

教員数	学会発表	学内研究費採択数 （応募数）	外部研究費採択数 （応募数）	科学研究費 （代表・分担・継続）
4	3	1 （2）	1 （2）	2

教員 3 名が博士課程在学中で研究に励んでおり、専攻科として研究に力を注げる体制を整える必要がある。

３）学生支援面

アドバイザー制度を設け、定期的な個別面談を実施し、学習態度や心身の状況の把握に努め、学習支援を実施した。必要に応じて家族や保護者との連絡も実施した。

４）臨地実習

2 年次の「臨床実習」は、グループ関連施設 25 人、外部医療機関 23 人、教育機関 2 人で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により一部の実習を学内実習に切り替え、17 人が参加した。

臨地実習指導者会議は Zoom で実施し、12 施設が参加した。

５）国家試験対策

試験対策として国試対策授業、模試、個別指導を実施した。在籍学生 21 名中 17 名が国家試験を受験し、15 名が合格であった。（合格率 88%）

６）就職支援

4 月：就職活動の概要説明、履歴書の書き方指導

7 月：高邦会グループ施設の説明

8 月以降：病院見学やエントリー、就職活動

個別に就職相談や履歴書の書き方指導、面接指導を実施した。

本年度の就職を希望した 14 名は、一般病院 10 名、大学病院 1 名、療育センター1 名、放課後等デイサービス 2 名で、就職率は 100%であった。

７）FD 活動

配慮の必要な学生に対する理解や対応についての話し合いを頻繁に実施した。カウンセラー（公認心理士）からの助言を聞く機会を受けた。

８）公開講座等

①　公開講座

日　時：2020 年 11 月 7 日（土）　14：00～16：00

テーマ：高齢者の健康～認知編～

講　師：尾籠　晃司（本学 作業療法学科教授）

吉永　明史（本学 言語聴覚専攻科助教）

池下　博紀（本学 言語聴覚専攻科助教）

②　地域公開教室

第１回　2020 年 6 月 27 日（土）「嚥下障害の予防と訓練」吉永明史

第２回　2020 年 7 月 15 日（水）「認知症の理解とかかわり方」池下博紀

第３回　2020 年 8 月 19 日（水）「高齢者の難聴と補聴器」平島ユイ子

第４回　2020 年 9 月 16 日（水）「認知症の予防とかかわり方」吉永明史

第５回　2020 年 10 月 17 日（土）「口腔機能を低下させないために」吉永明史

第６回　2020 年 11 月 28 日（土）「吃音を持つ子どもたちへの支援」豊嶋明子

第７回　2020 年 12 月 5 日（土）「学習言語の指導方法」平島ユイ子

後半第 8 回以降は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

③　入学前教育

入学前教育として入学予定者に対して専門用語の予習やノート指導を行った。地域公開教室も入学前指導として参加を促した。

９）今後の課題

主体的に学習を進めることができない学生への対応が課題である。

2020 年度の臨地実習は、新型コロナウイルス感染症の影響により、グループ外施設における実施が減少し、十分な指導が難しかった。今後も実習施設が減少する可能性があるため、実習施設の確保や事前指導を充実させる必要がある。

国家試験対策としては、学習成果のフィードバックを基に、学生自身が自発的に学習に取り組むよう教員による細やかな指導が必要である。国家試験未受験者や不合格者に対する指導を充実させる必要がある。

２．2021 年度の計画（目標）

・2 学年の交流や、上級生による下級生を対象とした検査演習や模擬症例の説明の演習を実施することで、演習や実習の充実を図り、臨地実習のイメージを持たせる。

・幅広い年齢、多様な職歴の学生の入学が予定されており、入学直後より丁寧な学習支援を行う必要がある。

・実習、就職活動、国家試験対策の指導を個々の学生の状況や実態に合わせて実施する。

・教員に対しては研究や研修活動にも力を尽くせるよう体制を整える。

国家試験対策予定

	内容	模試
（３月）	既習科目の復習・補習	校内模試①②③
４月	既習科目の復習・補習	校内模試④
５月	既習科目の復習・補習	校内模試⑤
６月	既習科目の復習・補習	校内模試⑥
７月	既習科目の復習・補習	校内模試⑦
８～１１月	学外実習	
１２月	国家試験対策講座・校内模試⑧⑨⑩・一般模試	
１月	卒業試験①②③	
２月	国家試験	

就職対策予定

	1 年	2 年
４月	病院・施設見学	就職説明会（予定：履歴書の書き方など）
５月		
６月		
７月		就職エントリー開始・グループ施設就職説明会
８月～２月		就職活動
３月	病院見学	就職活動

３．各委員会等の自己点検・評価報告書

３．各委員会等の自己点検・評価報告書

①　教務委員会　　委員長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）
  1.1　教育課程及びその内容・方法の点検・評価
    1.1.1　講義評価アンケート（WEB 実施）
  1.2　定期試験の管理
    1.2.1　スケジュールの調整（定期試験・追試験）
    1.2.2　再試験申し込み期間と再試験期間の設定（試験結果公示日の設定）
  1.3　教育を行うための措置と授業形態・方法
    1.3.1　入学前教育を検討する WG 設置
    1.3.2　教育環境の整備（教員への聞き取り）
  1.4　成績評価、単位認定及び学位授与
    1.4.1　進級判定、卒業判定
    1.4.2　アセスメント・ポリシーの策定（学生委員会・就職委員会と連携）

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4 段階，A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	1.1.1［B］；最終講義日に時間を設けて WEB 実施。結果は FD 委員会でグッドティーチング賞。
1.2	1.2.1［A］；問題は生じなかった。 1.2.2［B］；問題は生じなかった。
1.3	1.3.1［A］；WG 報告書により適切な決定が行えた。 1.3.2［A］；教育研究戦略会議より依頼を受けて聞き取りを実施し、結果を会議へ提出した。
1.4	1.4.1［A］；問題は生じなかった。 1.4.2［B］；関連する委員会とともに策定できた。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
  1.1　1.1.1 継続的なアンケート実施
  1.2　1.2.2 学生へ手続きを周知徹底
  1.3　1.3.2 継続的な聞き取り実施
  1.4　1.4.2 策定したアセスメント・ポリシーの公表

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
  1.1　教育課程及びその内容・方法の適切性における定期的な点検・評価
    1.1.1　FD 委員会と連携した教育リテラシーの向上
    1.1.2　IR 推進室と連携した留年・退学者の予測モデル検討（IR, Institutional Research）
  1.2　定期試験の適切な管理
    1.2.2　手続きの適切な実施（担当科目教員と学生へ手続きの周知徹底）
  1.3　効果的に教育を行うための措置と学習成果に応じた授業形態・方法の採用
    1.3.2　教育環境向上のための継続的な整備
  1.4　成績評価、単位認定及び学位授与の適切な実施
    1.4.2　機関レベル（大学）・教育課程レベル（学部・学科）・科目レベル（授業科目）の 3 段階で公表

② 教務委員会カリキュラム小委員会　　委員長：丹羽　敦（OT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）

1.1　目標：

・2021 年 4 月の国際医療福祉大学福岡看護学部の設置者変更に伴う、看護学部と医療学部の開講方法の調整

⇒　総合教育科目、専門基礎科目について、科目区分、開講時期の調整、同時開講科目の可能性を検討し、医療学部・看護学部のカリキュラム編成を終え、次年度からの開講準備を整備した。

・2022 年度看護師学校養成指定規則改正による新カリキュラムの作成

⇒　2023 年度医療学部のカリキュラム改正を考慮し、2022 年度入学生からの看護学部新カリキュラム案を作成。2021 年 7 月に文部科学省へ提出予定である。

1.2　事業計画：

・看護学部と医療学部のカリキュラムにおける開講方法の調整

⇒　総合教育科目・専門基礎科目（語学系・海外保健福祉事情含む）の同時開講について、時間数の異なる同一科目の調整も考慮して検討し調整され両学部で共有された。また関連職種連携ワークについては、WG を作り、開講方法を検討した。ほぼ実施要項が完成しており、4 月に教員説明会を実施、5 月中旬より開講する予定である。

・看護学部新カリキュラム（2021 年度 7 月文部科学省提出）の検討

⇒　理事会・評議員会での審議を経て、7 月文部科学省提出予定である。

＊会議内容は随時教務委員会で報告をおこなった。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

2.1　時間割の調整（教室の確保）

2021 年度看護学部移管、また医療学部が第 3 学年まで進行するため、同時開講科目も含め、各教科の教室の確保が懸念される。

2.2　看護学部、医療学部の新カリキュラムの調整

2022 年度入学生からの看護学部新カリキュラムと 2023 年度入学生からの医療学部新カリキュラムの整合性。また単位の読み替え等の調整が必要となる。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

3.1　時間割の調整（教室の確保）

学生の移動を考慮した、本館、1 号館、2 号館の教室分担を検討。同時開講科目を集中させるなどの対策が必要。VOD 科目の利用。オンライン授業の活用。

3.2　看護学部、医療学部の新カリキュラムの調整

2022 年度からの看護学部新カリキュラムについて、7 月文部科学省提出に向けて、最終確認を行う。また、看護学部カリキュラムにおいて旧カリキュラムとの読み替え科目の検討を行う。2023 年度からの医療学部新カリキュラムについて、看護学部新カリキュラムとの整合性を考慮して作成する。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

4.1　目標：

・看護学部の現行カリキュラムにおけるスムーズな開講

・2022 年度看護師学校養成指定規則改正による看護学部の新カリキュラムの完成

・2023 年度（完成年次以降）の医療学部新カリキュラムの作成（2022 年度申請予定）

4.2　事業計画：

・会議は随時行い教務委員会で報告する。

・目標に対して以下に事業計画を記載する。

1）現行の看護学部と医療学部のカリキュラムにおけるスムーズな開講。

2）学生の移動を考慮した時間割の調整（教室確保）。VOD 受講、オンライン授業の検討。

3）看護学部の新カリキュラムの完成。医療学部と合同で最終確認。

4）2022 年度提出に向けた、2023 年度からの医療学部新カリキュラム案の作成。

③　学生委員会　　委員長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）

1.1　学生支援体制の整備と点検・評価

1.1.1　コロナ禍による学生生活アンケート（2020 年 10 月 web 実施、有効回答数 308）

1.1.2　学生アンケート（2021 年 1 月 web 実施、回収率 22.5%）

1.1.3　卒業時アンケート（2021 年 2 月 web 実施、回収率 95.2%）

1.1.4　保護者懇談会（11/14 に Zoom 個別面談、全体会は動画配信のみ）

1.1.5　ニューズレター発行

1.2　学生の修学に関する支援の実施

1.2.1　新入生オリエンテーション（4/2、コロナ禍のため午前中のみで短縮実施）

1.2.2　各種の修学支援制度案内（在校生と次年度入学予定者へ案内）

1.3　学生の生活に関する支援の実施

1.3.1　学部・専攻科における個人面談の把握（時期、面談基準）

1.3.2　体調不良者への対応整理（COVID-19 感染予防対策）

1.4　学生の正課外活動（部活動等）の支援の実施

1.4.1　部・サークルの活動指導（コロナ禍のため休止要請・予防の促し）

1.4.2　運動会・学友会・大学祭運営の支援（コロナ禍のため休止要請）

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4 段階，A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	1.1.1［A］；コロナ禍における学生の心理・経済・行動について、状況を把握できた。 1.1.2［D］；回収率が著しく低下した。 1.1.3［A］；適切に実施できた。 1.1.4［A］；適切に実施できた。 1.1.5［A］；適切に実施できた。
1.2	1.2.1［B］；やむなく短縮したが、最低限の内容について実施できた。 1.2.2［A］；問題なし。
1.3	1.3.1［A］；個人面談の状況が把握できた。 1.3.2［A］；担任・事務が連携し、適切な COVID-19 感染予防対策並びに PCR 検査該当者の把握・指導が行えた。
1.4	1.4.1［A］；適切な指導が行えた。 1.4.2［B］；警戒レベルに応じた適切な対応であった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

1.1　1.1.2　課題整理は未着手（昨年度と実施時期が異なるため）、著しい回答率低下（原因分析）

1.1.3　IR 推進室と連携し、大学の評価として位置付ける。

1.3　1.3.2　引き続き COVID-19 感染予防対策の徹底を図る。

1.4　1.4.2　学生満足度を高める活動と COVID-19 感染予防対策の両立。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

1.1　学生支援体制の適切な整備と適切性についての定期的な点検・評価並びに改善・向上への取り組み

1.2　アンケートに基づく課題整理（管理運営委員会へ提議）と回収率改善策の検討

1.3　学生の生活に関する適切な支援の実施

1.3.1　個人面談の定期的な実施。

1.3.2　学校保健安全法上の適切な対応（インフルエンザ、COVID-19）

1.4　学生の正課外活動（部活動等）を充実させるための支援の実施

1.4.1、1.4.2　近隣のインフラ（2 号館、公開空地）の活用などを検討

④　図書委員会　　委員長：森　望（ORT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）

・大学設置準備図書（予定額　¥6,116,591）のうち未入荷図書代替を選書し、2020 年度大学設置準備図書として¥6,116,753(377 冊)を配架した。

・定期購読物の継続、中止、追加を決定した。（雑誌 ¥3,330,320、電子ジャーナル及びデータベース ¥6,644,036）（電子ジャーナル及びデータベースは申請中）

・NACSIS 参加機関として所蔵登録（9,113 件）し、相互利用の料金設定をした。

・図書購入リクエスト期間を設け、リストアップをした。

・看護系図書を含む福岡国際医療福祉学院（2020 年 3 月閉校）の蔵書整理をおこなった。
（大川看護福祉専門学校へ移管 148 冊/1F 共同研究室へ移動 138 冊/除籍（除却）2,131 冊）

・雑誌の登録整備作業を行い、5/27 より貸出を開始した。

・シラバス関連本の貸出（3 日間）を 11/12 より開始した。

・図書館オリエンテーション（館内）を 7/28～8/1 にて実施した。

・本学ホームページに図書館ページを作成した。

・学生アルバイトによる夜間開館を 11/16 より開始した。

・九州地区大学図書館協議会へ加入した。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

・本学の教育・研究分野に沿った多様な資料を広く収集・保存・運用し、それらの充実を図るための図書整備方針を策定する。

・新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた学外者の図書館利用について整理する。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

・国際医療福祉大学図書館との相互利用（文献複写・現物貸借）の取扱いについて整備し、連携体制を整える。

・研究・学習を目的とした図書館利用を希望する学外者（一般の方を含む）の図書館利用について整備する。併せて、福岡市総合図書館との連携を検討する。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
・図書整備方針を策定し、看護学部移管に伴う 2 図書館体制における蔵書構成の整備を行う。
・ILL サービス（図書館間の資料相互利用）の周知と利用案内を行う。
・図書館オリエンテーションの実施等による各種図書館サービスの利用案内を強化する。
・電子ジャーナル等電子資料の利用に関する情報提供を強化し、簡便に利用できる環境を整える。

⑤ 臨床教育実習委員会　　委員長：柊　幸伸（PT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
1-1. 実習計画の確認
・各科の実習計画の確認
1-2. 実習報告
・理学療法学科（「基礎実習Ⅰ」「基礎実習Ⅱ」）
・作業療法学科（「基礎実習Ⅰ」「基礎実習Ⅱ」「地域作業療法実習」）
・言語聴覚専攻科（「臨床実習」）
1-3. 実習先開拓状況の確認
1-4. 実習関連予算の確認

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
2-1. 新型コロナウイルス感染症による実習受け入れ先確保の問題
・現状では実習受け入れの可否判断ができない。
・学生の人数分の実習先確保が困難である。
・実習先のエリア拡大も検討せざるを得ない。
・それに伴う実習経費及び学生負担金の増加が予想される。
2-2. 臨地実習を学内実習に置き換え
・新型コロナウイルス感染症の影響により一部実習を学内実習に置き換え
・学生の臨床体験の欠如、コミュニケーション機会の減少

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
3-1. 福岡県内を中心に実習先を確保するが、必要に応じて九州全域、関西圏、関東圏の実習先も検討する必要がある。
3-2. 実習エリア拡大による学生負担金の増加に関して、試算金額を年度初めのオリエンテーションで連絡

４. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
4-1. 各科の実習スケジュールの確認と共有
4-2. 各科の実習遂行の伴う諸問題の確認と共有
4-3. 各科の実習関連予算案の共有
4-4. 新型コロナウイルス感染症の対応策の検討

⑥　倫理審査委員会　　委員長：吉冨　健志（ORT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）

本学専任教員を対象とし、研究倫理研修を実施し、対象者全員の受講が完了した。

倫理審査委員会は、4 月 8 日の第 1 回倫理審査委員会で 1 件の倫理審査、6 月 3 日の第 2 回倫理審査委員会で 3 件の倫理審査、7 月 1 日の第 3 回倫理審査委員会で 6 件の倫理審査、11 月 4 日の第 4 回倫理審査委員会で 5 件の倫理審査､1 月 6 日の第 5 回倫理審査委員会で 0 件の倫理審査、2 月 3 日の第 6 回倫理審査委員会で 1 件の倫理審査、3 月 3 日の第 7 回倫理審査委員会で 4 件の倫理審査、3 月 25 日の第 8 回倫理審査委員会で 9 件の倫理審査を行い、本年度の倫理審査は 29 件となり、最終的にすべて承認された。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項)、問題点の整理

2020 年度は研究体制の構築により、審査件数が 28 件に増加した。今後はさらに増加することも考え、対応を検討する必要がある。本学以外の倫理審査委員会ですでに承認されている研究や侵襲のない研究に関して、迅速審査で対応することについて協議を重ねている。

2021 年度は看護学部も加わることで、すでに国際医療福祉大学の倫理審査委員会で承認されている研究に対して、今後の取扱いに関する協議が必要となっている。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

今後の研究体制の構築とともに倫理審査は増加すると考えられる。また、学生の卒業研究が始まることもあり、これを倫理審査委員会としてどのように扱うか、研究対象学生が未成年であった場合は、保護者の同意をどのようにするかなど、さまざまな課題が山積みしている。また、先にも述べた看護学部の研究に対しても課題があり、今後も委員会で協議していく予定である。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

2021 年度は看護学部も加わり、新たな体制で臨む必要がある。迅速審査の導入や国際医療福祉大学との連携などを今後検討していくことが必要となる。

⑦　研究推進委員会　　委員長：吉冨　健志（ORT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）

本年度は、2020 年 6 月 3 日に第 1 回の委員会が開催され、7 月 1 日、9 月 2 日、11 月 4 日、12 月 2 日、2 月 3 日、3 月 3 日に計 7 回の委員会を開催した。

8 月 19 日に研究推進委員会主催 FD 研修「科研費申請セミナー」(参加者 34　名)を開催、さらに同日に学内研究会を開催し、各学科から 2 名の研究発表が行われた(参加者 37　名：うち福岡看護学部教員　2　名)。

2020 年度から本学の教員が国際医療福祉大学学会に参加することとなった。

学内研究費公募を行い、12 件申請中 5 件が採択、その内訳は一般研究（A 一般）2 件、一般研究（B 奨励）1 件、臨床研究 2 件であった。2019 年度より議論されていた統計ソフトは、全学科で共有できるシステムとして導入された。研究設備のスペース収納についての体制はほぼ構築された。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

今後の学内研究会については、次年度は看護学部看護学科が加わるため、看護学科 3 名発表、理学療法学科 2 名・作業療法学科 2 名・視能訓練学科 2 名・言語聴覚専攻科 1 名の計 10 名の発表を、午前午後に分割して行う方向で検討がなされている。

研究倫理・コンプライアンス研修については、今後の時期、内容等が未定のため、外部コンテンツの利用等も含め、引き続き検討となっている。

複数の教員から外部研究費における物品購入について、オーダーに対して迅速に対応してほしいという要望が出されたので、管理課から消耗品と備品の区別についての説明・購入手続きについての説明がなされた。全体への説明会開催も含めて継続審議となっている。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

卒業研究における倫理審査について協議が行われており、方向性を決める段階にある。

2020 年度の新任教員の研究設備などの搬入を含め、今後の研究の進展が期待される。

学内研究会及び「科研費申請セミナー」を行う予定であり、国際医療福祉大学学会学術集会への参加も Web で行うなど、今後も継続的に実施していく方向で検討を進めている。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

2021 年度の学内研究会の実施方法等については、今後も継続して検討していく予定である。国際医療福祉大学学会学術大会へ本学教員全員が参加する方法について今後も検討していく。

⑧ 学生募集委員会　　委員長：柊　幸伸（PT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）

1-1. 大学広報活動

2020 年 6 月 26 日	高校教員対象大学説明会
2020 年 6 月 30 日	高校教員対象大学説明会

1-2. オープンキャンパス

2020 年 7 月 12 日	オープンキャンパス
2020 年 8 月 8 日	オープンキャンパス
2020 年 8 月 9 日	オープンキャンパス
2020 年 8 月 30 日	オープンキャンパス
2020 年 10 月 31 日	オープンキャンパス
2020 年 12 月 5 日	オープンキャンパス

1-3. 入試関連

2020 年 10 月 24 日	入試（総合型選抜）
2020 年 11 月 21 日	入試（学校推薦型選抜、帰国生徒特別選抜）
2021 年 2 月 1 日	入試（一般選抜前期 A）
2021 年 2 月 2 日	入試（一般選抜前期 B、社会人・留学生特別選抜）
2021 年 3 月 5 日	入試（一般選抜後期）

1-4. その他

オンライン個別相談会（8 月、9 月）、業者主催進学ガイダンス、高校内ガイダンス、
地方大学説明会、大学広報動画、パンフレット作成

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

2-1. 大学広報活動に関して

・例年どおり問題なく開催できた。

2-2. オープンキャンパスに関して

・回毎に時期、参加人数を考慮し、各学科のツアー形式や自由参加型など工夫を凝らして運営することができた。

・毎回、協力学生の確保に難渋している。（授業や長期休暇の影響が大きい）

2-3. その他

・新型コロナ感染症の影響でガイダンスの中止が多かった。

・訪問型のガイダンスができた高校での反応は良かった。

・広報動画、パンフレットの写真撮影のスケジュールがいつもタイトであった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

3-1. オープンキャンパスに関して

・実施時期、内容のルーチン化。

・協力学生への謝礼の強化。（拘束時間相応分）

3-2. 高校訪問型ガイダンスに関して

・オープンキャンパスに参加しにくい島嶼部の高校には有効。積極的な参加を。

3-3. 広報動画、大学パンフレットの作成

・余裕を持ったスケジューリングが必要

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

4-1. 大学広報活動

・例年どおり、高校教員対象大学説明会

4-2・オープンキャンパス

・実施は例年どおり。各学科の機器が充実してきたことより、より学科の特徴を出した企画。

・学生主体による運営企画があっても良い。

4-3. 高校訪問（ガイダンスを含む）

・参事の高校訪問に教員の同行回数を増やす。他校との差別化

4-4. オンラインによる大学説明会・個別相談会

・コロナ渦の有無に関係なく、オンラインを用いた説明会、相談会は有効

⑨ 入試委員会　　委員長：丸山　仁司（副学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）

・2021 年度入試の実施

総合型選抜、学校推薦型選抜、帰国生徒特別選抜、一般選抜前期、一般選抜後期
大学入学共通テスト利用選抜、社会人特別選抜、留学生特別選抜
言語聴覚専攻科入学者選考 10 回

・入試委員会の開催（8 回）

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

・受験者の確保

・留学生の受験者（2021 年度入学生は１名のみ）

・帰国生徒特別選抜、社会人特別選抜の受験者０名
・大学入学共通テスト利用選抜の歩留まり数が少ない

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
・留学生に対する広報対策と入学後サポートについて検討（日本語教育など）
・試験科目等の検討

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
・2022 年度入試区分と日程調整

⑩　情報教育（ICT）委員会　　委員長：橋本　勇希（ORT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
・Google classroom を 2021 年度に導入するための活動を主に行った。
・今後の展望を考え、委員を LMS チーム（3 名）、VOD チーム（3 名）に分けて活動した。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
・Google classroom について 9 月の代表者会議及び管理運営委員会において、情報教育（ICT）委員会の取りまとめ案を報告してから、現時点（3 月 17 日）まで決定事項についてなどの詳細な連絡がなく、未だに動けない状態が続いている。2021 年度の前期に準備が間に合うのかが大きな問題である。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
・情報教育（ICT）委員会の権限の範疇ではないので、連絡があるまでこのまま待機する。ただし、いつでも動けるように委員の中で意見交換や情報共有をし、関係各所とも密に連携を取っておく。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
・Google classroom を実際に運用し、その中で YouTube を用いた実技の指導や授業の動画配信を試みるなど、今後 VOD を進めていくための基礎を構築していく。

⑪　国家試験等対策委員会　　委員長：丹羽　敦（OT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
1.1　目標：言語聴覚専攻科　2020 年度卒業生　国家試験 100％合格
⇒　結果 17 名受験 15 名合格
1.2　事業計画：会議は 1 回/月の定例とする。
⇒　6 月、7 月、8 月、9 月、11 月、12 月、1 月、2 月、3 月の計 9 回実施。
（1 月・2 月は報告・確認事項のみをメール会議として実施した。）
1.2.1　言語聴覚専攻科の 2020 年度国家試験対策の計画書に基づいた支援
・模擬試験、対策講座への必要経費の援助として、教育後援会から学生に 1 万円/一人の対策費用の配分がなされた。
・模擬試験実施及び自習用の教室として、7F の 2 教室を特別対策室として 8 月より開放した。
・受験票作成－提出－受験－自己採点の流れにおける教員と事務局との連携について、

役割の分担を明確にした。

・医療学部の教員へ対し、国家試験模試作成や国試対策講義等の協力依頼について、学長及び国家試験等対策委員長より文書で依頼がなされ、国家試験対策支援への協力を促した。

・新型コロナウイルス感染症の影響により、厚生労働省の通知に従い、予防対策を検討しながら模擬試験、学内指導、受験手続及び試験当日の引率等に対応した。

1.2.2　理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科の 2022 年度第 1 期生の国家試験対策の計画についての検討

・各学科より提出された 4 年間の国家試験対策計画案について委員会内で確認した。また、各学年の業者模試（有料）の申し込み手続きについて、券売機の利用を検討し、利用手順を文章化し明確にした。

・教員の要望により、授業及び定期試験問題作成の参考となるように、各学科の過去 5 年分の国家試験問題をサイボウズで共有できるよう整備した。

・国家試験対策費について保護者へ周知するため、1・2 期生の保護者懇談会を 11 月 14 日に実施した。事前資料及び説明動画を各学科で作成し、学生対象説明会を実施した。なお、3 期生については 3 月の新入生への案内に「国家試験対策費用」の説明資料を同封し、入学後のオリエンテーションにおいて説明を行うこととした。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

2.1　自習室の確保

2021 年度は医療学部が第 3 学年まで進行、また看護学部が移管することに伴い、集中講義や個人指導の教室及び自習室の確保が課題となる。

2.2　新型コロナウイルス感染症拡大の影響

学内における対面指導が困難となった場合の、集中講義や個人指導等の対策の検討が必要となる。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

3.1　自習室の確保

2021 年度の国家試験受験対象は、言語聴覚専攻科と看護学科である。

原則、言語聴覚専攻科は本館、看護学科は 1 号館、2 号館で自習室の確保を検討するが、医療学部が第 3 学年まで進行するため、言語聴覚専攻科においては、1 号館、2 号館の自習室使用も考慮する。

3.2　新型コロナウイルス感染症の影響

これまで通り、厚生労働省の通知に従って感染予防を行いながら、模擬試験、集中講義、個人指導を実施する。状況によってはオンラインによる指導について検討を行う。

3.3　その他

休日の学内自習室の使用について、教員の協力体制を検討する。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

4.1　目標：看護学科、言語聴覚専攻科　2021 年度卒業生　国家試験 100%合格。

4.2　事業計画：会議は 1 回/月の定例とする

4.2.1　看護学科、言語聴覚専攻科の 2021 年度国家試験対策への支援

・模擬試験、対策講座への必要経費への援助

・教育後援会からの費用援助を確認

・模擬試験実施、自習教室の確保

・自習時間の確保（休日等を含めた教室・図書館・ラウンジの使用）
・国家試験受験申請手続きに関する教員と事務部の役割分担の確認

4.2.2　理学療法学科、作業療法学科、視能訓練学科については、1期生の国家試験に向けた対策計画に基づいて実施を支援する。
・模擬試験の教室確保及び申込手続きに関する教員と事務部の役割分担の確認

⑫　国際交流委員会　　委員長：菅原　洋子（OT）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
・「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」は新型コロナウイルス感染症の影響により海外現地での実習は中止となり、オンライン講義で代替することとなった。
・看護学部との海外保健福祉事情の授業実施の枠組みを形成した。
・国際医療福祉大学主催の「留学生オンライン交流会」に参加した。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
・「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」の海外研修ができない状況でも国際的な関心を高める必要がある。
・看護学部との合同授業実施における課題を整理する。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
・「海外保健福祉事情Ⅱ（実習）」の代替措置であるオンライン講義を活用したグループワークの工夫を検討する。
・看護学部との授業実施方法の違いを明確化し、合同実施に向けた方法について具体化する。

４. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
・国際交流委員会が国際交流室へ組織変更することに伴い、国際交流に関する行事などがスムーズに実施される体制を構築する。

⑬　就職委員会　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
・学生の就職活動を支援するために、就職活動届や履歴書、推薦書などのひな形を作成した。
・就職情報発信に伴う Web サイトや資料室、各種書籍の整備を進めた。

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
・現行の就職支援が在学生対象となっており、既卒生を対象としていない。
・現行の就職活動は医療職を対象としているため、学生のニーズ多様化に対応した一般職を対象とした就職活動の支援の必要性を検討する。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
・就職委員会のキャリア支援室への移行に際し、従来の医療職を対象とした就職支援に加え、一般職の就職支援も学生の希望があれば行う必要がある。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

<table>
<tr><th></th><th></th><th>事務</th><th>理学療法学科</th><th>作業療法学科</th><th>視能訓練学科</th><th>言語聴覚専攻科</th><th colspan="2"></th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年</td><td>前期</td><td rowspan="8">求人票送付依頼
求人票集約
ホームページ
履歴書準備販売
病院説明会
病院説明会
職場紹介
病院説明会
インターンシップ
卒後就職先紹介
内定者数の集約</td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>後期</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年</td><td>前期</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>後期</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">3 年</td><td>前期</td><td></td><td></td><td></td><td>就職希望ｱﾝｹｰﾄ
グループ病院見学</td><td>前期</td><td rowspan="2">1 年</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>就職希望アンケート</td><td>就職希望アンケート</td><td>就職希望アンケート</td><td>病院半日見学
G 関連説明会</td><td>後期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">4 年</td><td>前期</td><td>就職説明会
就職希望先見学
マイナビ
仕事サポートセンター</td><td></td><td>就職ガイダンス（担任）
就活実践対策セミナー（業者）
就職説明会
就職活動</td><td>就職内規説明
履歴書書き方
就職活動開始</td><td>前期</td><td rowspan="2">2 年</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>履歴書書き説明
模擬面札
就職活動</td><td>就職説明会
就職希望先見学
関連施設説明会
履歴書書き説明
模擬面接
就職活動</td><td>個別対応
模擬面接
履歴書作成</td><td>就職活動
個別対応
模擬面接
履歴書作成</td><td>後期</td></tr>
</table>

⑭ ボランティア委員会　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）

　大学に依頼のあったボランティア活動の Web による紹介、ボランティア活動カードの作成、活動実績の確認のための準備等を行った。2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりボランティアの募集は行わなかった。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

　ボランティア活動の依頼は、「福岡国際医療福祉学院（2020 年 3 月閉校）」宛に届くものがほとんどであり、地域における本学の知名度を向上させることが必要である。

　ボランティアセンター（仮）を設置し、地域からボランティア要請がしやすい環境を整備する。地域連携を強化するために、ボランティア活動以外の地域活動も行う。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

　教員からボランティア活動の意義などを学生に伝えると同時に、学生がボランティア活動に参加しやすいよう参加届を簡略化しつつも安全性を確保できる書式を検討する。

　地域連携センター（仮）を設置し、ボランティア活動以外の地域からの要請（例えば研修講師など）についても対応できるようにする。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画

　ボランティア活動の依頼は、掲示及び Web で学生に知らせる。新入生には参加までの手続きを知らせる。

「ラブアース・クリーンアップ（百道浜地区の清掃ボランティア活動)」については、多くの学生、教員が参加するよう啓発する。

ボランティア表彰を6月運動会と10月大学祭の際に引き続き実施する。

⑮　地域連携推進室　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did 実行：2020年度事業報告（決定事項、作業など）

地域に向けた講演会を実施したり、通常講義に地域の方が参加できるような公開講義日を設けたりする予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、講演会は2020年11月7日の「高齢者の健康―認知を」をテーマとした尾籠晃司教授、吉永明史助教、池下博紀助教による開催のみとなった。公開講義については、次年度に延期となった。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項)、問題点の整理

・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、地域連携を強化するための講演会や公開授業などを実施する。

・全学科との連携を踏まえたスムーズな運営方法を考える。広報の方法について検討する。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案

・「地域公開講座」への名称変更と年4回の開催

・これまでに行ってきた広報活動の整理と見直し

4. Plan 計画：2021年度の目標と事業計画

第1回：　6月5日（土）　理学療法学科

講師：田川辰也教授（理学療法学科)、副島修教授（作業療法学科）

第2回：7月17日（土）　作業療法学科

森望教授（視能訓練学科)：高齢者の頭の健康と脳の老化

丸山仁司副学長：高齢者の運動と健康―足の老化

第3回：11月6日（土）　看護学部（成人看護学分野：生活習慣病予防）

第4回：11月27日（土）　看護学部（基礎看護学分野：感染予防対策）

⑯　産学・医工連携推進室　　室長：北島　栄二（OT）

1. Did 実行：2020年度事業報告（決定事項、作業など）

1.1　産学・医工連携のための方針策定

1.1.1　活動なし

1.2　産学・医工連携のための基盤整備

1.2.1　IUHW 未来研究センターとの連携

1.3　共同研究・受託研究の推進

1.3.1　共同研究や知財管理を希望する教員への支援

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理

事項	自己評価［4段階，A-D］と今後の課題（問題点）
1.1	［評価なし］；活動なし
1.2	1.2.1［B］；知財の取り扱いや共同研究の在り方など、未来研究センターと情報共有ができた。
1.3	1.3.1［B］；適切に実施できた。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
   1.1　方針策定のための情報収集
   1.2　福岡県における既存の知的ネットワークに関する情報収集、法的枠組みの整理
   1.3　本学の研究シーズの整理と共同研究・受託研究推進のためのルール策定

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
   1.1　産学・医工連携のための方針策定
      1.1.1　産学・医工連携ポリシーの策定（国際医療福祉大学の内容を参考）
   1.2　産学・医工連携のための基盤整備
      1.2.1　知的ネットワークの形成（他大学、企業及び自治体）
      1.2.2　利益相反・責務相反への対応等の整理
      1.2.3　知的財産権等研究成果の取扱いの整理
      1.2.4　国際医療福祉大学未来研究センターとの連携
   1.3　共同研究・受託研究の推進
      1.3.1　研究シーズのデータベース構築（研究シーズ集）
      1.3.2　研究シーズのデータベース公開
      1.3.3　共同研究・受託研究のルール策定

⑰　FD 委員会　　委員長：丸山　仁司（副学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
   FD 委員会会議 9 回開催
   FD 研修会の実施（マクロ FD：4 回、FD 医学教育セミナー：前期 10 回・後期 10 回）
   グッドティーチング賞要項の作成及び表彰者の推薦・表彰
   授業評価アンケートの回収率改善に向けた取り組み（2020 年度実績：75%）
   R-PDCA サイクルによる「担当授業の自己点検・評価・改善報告書」の様式作成と提出依頼
   FD・SD 推進委員会規程制定

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
   授業評価アンケートの回収率向上
   グッドティーチング賞の表彰者推薦
   R-PDCA サイクルによる「担当授業の自己点検・評価・改善報告書」の活用方法の検討
   2021 年度 FD 研修会の開催（SD 研修含む）

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
   授業評価アンケートの回収率の向上：アンケート実施方法の検討
   FD 研修会後のアンケート調査実施、参加率 100%の維持

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
　2021 年度 FD・SD 研修会の企画・開催
　2021 年度グッドティーチング賞の表彰者推薦
　2021 年度オープンクラスの導入と実施

⑱　ハラスメント防止委員会　　委員長：平島　ユイ子（ST）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項、作業など）
　ハラスメント防止について学生生活の手引きにおいて説明し、本学の指針を示した。ハラスメントについての理解を深めるためにパンフレットを作成し、学生、教職員に配布した。ハラスメントに関する相談があった時の対応手順について検討した。相談員を各科 1 名及び事務部 1 名の計 5 名を選出し公示した。教職員対象のハラスメント研修会「ハラスメント防止講座」を実施した。ハラスメントに相当する事象、相談はなかった。

2. Check:評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
　教職員対象の「ハラスメント防止講座」を通じて、面談や指導する環境についてハラスメント防止の観点が一層必要であることが明らかになった。
　学生に対しハラスメントについての理解を深める取組みが必要である。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
　教職員向けに専門家を講師としたハラスメント研修会を設ける。
　学生のハラスメントに対する意識を高めるため、ハラスメント防止ポスターやステッカーを募集したが、新型コロナウイルス感染症の影響により啓発が不足し十分な応募がなかったため、今後の改善について検討する。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
　教職員対象のハラスメント防止研修会を実施する。
　ハラスメント防止の観点から面談室が見えるようにドアストッパーを常備する。
　学生、教職員に対してハラスメント防止のためのパンフレットを 4 月に配布する。
　ハラスメントに関する相談に対応し、必要に応じてハラスメント調査委員会の設置を検討する。

⑲　安全衛生委員会　　委員長：丸山　仁司（副学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
　産業医：田川　辰也　先生（本学医療学部理学療法学科）
　衛生管理者：丸山　仁司　副学長
　ストレスチェックの実施、職場巡視の毎週実施
　新型コロナウイルス感染症拡大防止のための取組み（消毒、予防対策等）
　ヒヤリハット報告、5S 活動の推進、安全衛生委員会の開催（10 回）

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
　職場巡視を計画通り実施し、特段問題はなかった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
職場巡視の計画の立案及び実施の継続

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
2021 年度職場巡視計画策定、ストレスチェックの実施、新型コロナウイルス感染症対策の継続

⑳　防災対策委員会　　委員長：丸山　仁司（副学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
防災訓練計画の策定と実施、防災対策委員会の開催（10 回）

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
防災訓練は新型コロナウイルス感染症の影響により縮小して実施、次年度の実施方法について継続して検討が必要

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
教職員の防災訓練を 4、5 月に実施、新入生の防災訓練を 9 月に実施の予定

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
2021 年度防災訓練（本館、1・2 号館）の実施方法の検討
防災対策マニュアルの統一（本館、1・2 号館）

㉑　中期計画策定委員会　　委員長：今泉　勉（学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
・中期計画改訂案の検討、中期計画策定委員会の開催（4 回）
・達成状況や成果等の検証が客観的・効果的に行えるよう、認証評価基準等を基に中期計画を改訂、理事会及び評議員会の審議を経て、ホームページ等において公開する予定

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
・計画の進捗状況について、自己点検・評価委員会及び内部質保証委員会と連携して確認を行う。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
・大学院設置の方向性について検討を行う。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
・2021 年 4 月の看護学部移管に伴う中期計画の見直しを行う。
主な検討事項
1)大学院の開設検討
2)グラウンドなどの教育設備の充実
3)内部質保証
4)その他

㉒　自己点検・評価委員会　　委員長：今泉　勉（学長）

1. Did 実行：2020 年度事業報告（決定事項・作業など）
   ・2019 年度自己点検・評価報告書の作成
   ・2019 年度自己点検・評価資料集「ザ・フクオカ」の作成
   ・自己点検・評価委員会の開催（４回）

2. Check 評価：今後の課題（懸案事項）、問題点の整理
   ・自己点検・評価報告書の内容の充実を図る：年報の内容を含める。
   ・2019 年度自己点検・評価報告書に 2020 年度の事業の一部が含まれていたため、次年度以降留意する。
   ・2019 年度自己点検・評価資料集「ザ・フクオカ」の教員業績について、記載する当該期間の統一がなされていなかった。

3. Action 改善：課題、問題点の具体的な改善案
   ・2020 年度改善点は以下の通り
     1)自己点検・評価報告書に年報の内容である「沿革」などを含める
     2)教員業績は 12 月末までの期間として統一する。
     3)事業は 2020 年 3 月末までのものを掲載する。

4. Plan 計画：2021 年度の目標と事業計画
   ・2020 年度自己点検・評価報告書及び 2020 年度自己点検・評価資料集「ザ・フクオカ」の作成
   ・2021 年度年次計画の検討

４．中期目標・中期計画（2020-2024）

福岡国際医療福祉大学　中期目標・中期計画（2020－2024）

－ Dream and Hope Challenge 2020 －

（前文）大学の基本的目標　－変化に対応できる医療系総合大学を目指す－

本学は、2019 年に新しく開学した福岡市で初めてとなるリハビリテーション専門職養成の大学である。大学の基本理念は、建学の精神である「『生命の尊厳、生命の平等』を理解し、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる『共に生きる社会』の実現を目指す」ことであり、高度に専門・分化した医療に対応できるのみでなく、豊かな教養を備えたリーダーの育成とグローバルに活躍できる人材の育成を目的として設立された。

本学の前身である福岡国際医療福祉学院は、福岡市で約 20 年にわたり数千人の卒業生を輩出し、リハビリ医療の面で福岡県近郊のみならず全国的に社会に貢献してきた。加えて、本学では、知識と経験豊富な教授陣による人間性涵養のための総合教育の充実、膨大な情報の増加に対しては、ＩＣＴを利用した教育、アドバイザー制を用いた少人数教育、グループの豊富な関連医療福祉施設を利用した実習の充実、英語Ⅰ、Ⅱの必修化や長期の海外研修を通じての国際性を養うための教育、卒業研究の必須化による先端的かつ考えるリハビリ医療教育等を推進している。

しかし、近年、高齢化の急速な進行、国際化の急速な拡大、新型コロナウィルス感染症の蔓延、ＩＣＴを利用した働き方改革に見られる社会の変化等、世の中は目まぐるしく変化し、従来の考え方や枠組みではもはや社会のニーズに適合する人材の育成は望めない状況にある。リハビリテーション関係に絞っても同様の現象が起きている。例えば、理学療法学の分野では、従来の man-to-man によるリハビリテーションのみでなく、ロボット工学との連携等が挙げられる。つまり、本学が将来にわたって社会に求められる人材を輩出するためには、本学が有しているリハビリテーション関係の学問・学科だけでなく、社会の変化に対応できる医療系総合大学の構築が肝要である。

2021 年には、姉妹校である国際医療福祉大学から看護学科が移管される。今後、がん患者の増加に伴う放射線診断・治療の増加に対応するための放射線技術、人工呼吸器やＥＣＭＯ、人工心臓等の医療工学、新型コロナウィルス感染症で注目されたＰＣＲ検査等を専門とする臨床検査、ストレス社会での人間の心理面に対応できる臨床心理等の機能を有する大学の構築が求められる。

これからの５年間は、世界が如何に変化しているかを見据えた方策を着実に進めていく重要な時期である。本学は、新しい時代が求める医療系総合大学として、全学が一体となった自律的改革を進め、大学の機能を強化していく。

学長　今泉　勉

建学の精神

「生命の尊厳、生命の平等」

本学は、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、
互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指す。

教育目標

1. 「チーム医療・チームケア」に貢献できる専門性の高い人材を養成する。
2. 保健、医療、福祉分野の高度化・専門化に対応できるとともに、それぞれの分野で指導者となり得る人材を養成する。
3. 国内はもとより国際社会でも活躍できる、総合的な臨床能力をもった人材を養成する。
4. 知識や技術に偏向しない、バランスのとれた豊かな人間性とコミュニケーション能力を持った人材を養成する。
5. 時代のニーズに適合し、地域医療にも貢献できる、実践力のある人材を養成する。

中期目標・中期計画の達成に向けた基本方針

1. 福岡国際医療福祉大学ブランドの構築に向けた、**教育力の向上**
   多様化する学生一人一人の学修を支え、優れた人材を育てるために、教育力を高め、教育内容を適正化し、よりよい大学を目指す。
2. 夢と希望がある大学生活に向けた、**学生支援の充実**
   学生と教員の交流を通じて大学生活を支援するとともに、学生の福利厚生を支援する体制を強化し、学生生活を謳歌できる環境を目指す。
3. 次世代の研究者を目指した、教員・学生の**研究活動支援**
   保健・医療・福祉領域を核としたアジアにおける研究拠点を目指すとともに、学生が研究の機会に触れる環境を整備し次世代の研究者を育成する。
4. 地域、社会、国際化に向けた、**地域と国際社会への貢献**
   保健・医療・福祉領域における地域連携、産学連携、アジア諸国を中心とした国際交流を推進し、魅力ある大学づくりを目指す。
5. 円滑な組織運営に向けた、**社会的信頼の維持**
   組織体制や運営のしくみを常に点検・改善し、自ら改革ができ、透明性が確保された組織マネジメントを実現する。

中　期　目　標	中　期　計　画
Ⅰ　使命・目的等に関する目標	**Ⅰ　使命・目的等に関する目標を達成するための計画**
１　使命・目的及び教育目的の設定に関する目標 大学の使命・目的等を明確に定め、使命・目的等に整合した教育研究組織等を構築し、計画的に実現する。	**１　使命・目的及び教育目的の設定に関する目標を達成するための計画** **（１）使命・目的・教育目的の具体化と明確化** ＜国際性＞ ①国際ビジョンを策定する。(2021 年度) ＜チームワーク＞ ②質の高い医療福祉ケアに必要な「関連職種連携教育」を推進する。 ＜人格形成＞ ③幅広い視野と豊かな人間性を育むための総合教育を充実させる（ＶＯＤの活用等)。 ＜専門性＞ ④基礎医学系教育と専門医学系教育との連携を強化する。 ＜実践力＞ ⑤各専門職に必要な実践的能力を修得するための演習及び実習を充実させる。 **（２）特色・強みの明示** ①大学の特徴等をホームページやパンフレット等に継続して明示する。 ②広報活動（オープンキャンパス、ホームページ等）を通じた周知を徹底する。 ③ＩＣＴ（ＷＥＢオープンキャンパス、ＳＮＳ等）を積極的に活用する。 **（３）変化への対応** ①中期計画（大学の特色・強み等）は、社会の動向に応じて柔軟に見直す。 ②ＩＣＴ教育教材は、社会の変化に対応したリニューアルを進める。
２　使命・目的及び教育目的の反映に関する目標 大学の使命・目的等を、中長期計画その他の諸施策及び３つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に反映するとともに、学生・教職員及び社会に対して明らかにする。 また、使命・目的等は、社会の変化を踏まえ、必要に応じて柔軟に見直すとともに､大学運営と活動の基本軸として大学の活動全体に確実に反映する。	**２　使命・目的及び教育目的の反映に関する目標を達成するための計画** **（１）役員・教職員、学生の理解と支持** ①役員と教職員の合同会議である管理運営委員会において積極的な意見交換を行う。 ②使命・目的等をグループウエア、履修の手引き等に継続して掲載し明確化を図る。 **（２）学内外への周知** ①使命・目的等を広く、マスメディアやインターネットなどの媒体を通じて積極的に発信・公開することにより、社会的責任を果たすとともに、認知度の向上を図る。 ②使命・目的等の明確化を継続して行うため、定期的にホームページをリニューアルする。 ③公開講座、オープンキャンパス、学生オリエンテーション及び教職員研修等において、使命・目的等の周知を継続的に行う。 ④大学広報誌、履修の手引き等に、使命・目的等を継続して掲載し周知を図る。 ⑤ホームページにおいて、情報発信のための学生・教員・学科ブログを開設する。 ⑥公開講座を開催し、地域住民等とのコミュニケーションを深める。 **（３）中長期的な計画への反映** ①使命・目的等の実現のため、将来を見据えた中長期計画を策定する。 ②中長期計画の達成状況を定期的に点検するとともに、隔年ごとに評価し更なる改善と充実を図る。 **（４）３つのポリシーへの反映** ①使命・目的等を踏まえ、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの明確化を行うとともに、現状と比較し改善する（完成年度に見直し)。 ②使命・目的等に則ったポリシーになっているかについて、定期的に点検を行う。 **（５）教育研究組織の構成との整合性** ①教育研究組織を有効に機能させるとともに、各種委員会その他の運営体制を適切に整備する。 ②学長を中心とした教学マネジメント体制を構築し、各部署の役割の明確化を図る（2020 年度)。 ③教学マネジメント、カリキュラムコーディネーターの体制を整備する。(2021 年度)
Ⅱ　学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応に関する目標	**Ⅱ　学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応に関する目標を達成するための計画**
１　学生の受入れに関する目標 アドミッション･ポリシーに基づいた入学者選抜を適切に実施する。アドミッション・ポリシーに掲げる入学者を選抜するため､一般的な教養の習得度を評価する学力試験はもとより、面接・小論文や志願理由書・調査書等の書類審査を併せて行い、入学者選抜を通じて学力の３要素を多角的･総合	**１　学生の受入れに関する目標を達成するための計画** **（１）教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と周知** ①大学及び学科・専攻科ごとのアドミッション・ポリシーを策定する。 ②アドミッション・ポリシーは、ホームページや大学ガイドブック等を通じ継続して周知する。

中　期　目　標	中　期　計　画
的に評価する。 　また、入学定員及び収容定員を適切に定め、アドミッション・ポリシーに基づき、高等学校教育と大学教育の関連、社会人・帰国生徒及び外国人留学生の受入れ、国際的・社会的要請等に配慮した適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備する。	**（２）アドミッション・ポリシーに沿った入学者の受入れの実施とその検証** ①アドミッション・ポリシーに沿った入学者を確保するため、広報及び選抜方法の更なる改善・充実を図る。 ②学力の３要素（①基礎的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性・多様性・協働性）を踏まえた入試を導入する。 ・総合型選抜に基礎的知識を問う試験を導入（2020 年度） ・一般選抜に記述式問題を導入（2022 年度） ③アドミッション・オフィサーを確保する。(2020 年度) ④入試に関するＩＲ指標（過去の実態状況分析や受験者アンケート、入試方法とその後の修学状況・成績との関連を含む）の利用による分析を継続する。 ⑤全入学予定者に対する課題を設定する。(2021 年度) ⑥初年次教育を全学科で実施する。(2022 年度) **（３）入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持** ①入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍者数の管理を徹底する。 **（４）福岡市における大学のブランドイメージの確立と向上** ①地域連携のための目標・計画を策定する。 ②地域連携センター（仮称）を設置し、地方自治体・地元産業界等と連携し、総合的な地域連携を行う。 ③ボランティアセンター（仮称）を設置し、学生参加による地域連携ボランティア活動を推進する。 ④地域連携活動を推進するため、心理・福祉・子育て・病気等に関する地域住民用の各種相談窓口を設置する。 ⑤福岡市内の学校、公民館等における出張講義を実施する。 ⑥地方自治体や職能団体等との連携による公開講座の充実を図り、生涯学習拠点としての役割を高める。 ⑦福岡市と連携し、災害・事故・事件等に関する共同リスクマネジメント体制を構築する。 ⑧地元企業等との定期的な交流を実施し情報を共有する。 **（５）学生募集及び広報の強化・充実** ①学生募集担当組織と広報担当組織との緊密な連携による学生募集体制の強化を図る。 ②ホームページ・ＳＮＳ・報道等を活用した情報発信を継続して推進する。 ③オープンキャンパスの開催形態（オンライン、学生主体）について点検し改善する。(2020 年度) ④公開講座、模擬授業等を活用した組織的な広報活動を強化する。 ⑤大学生や社会人に対する広報活動を強化する。
２　学修支援に関する目標 　学生生活を通じて豊かな人間性を涵養し、学生の資質及び能力を十分に発揮させるための適切な学修環境を整備するとともに、学生の個性に応じた学修上の指導及び助言を行う。 　また、学生と教職員のネットワークを強化し、学生の自主的な学修を促進するきめ細かな支援を行う体制を構築し、学生の能力に応じた補習（補充）教育のほか、多様な学生に対する修学支援や学習の継続に困難を抱える学生の対応等、安定した学生生活の実現に向けた全学的な取組みを継続的に進める。	**２　学修支援に関する目標を達成するための計画** **（１）教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備** ①アドバイザー制度と担任制による学修支援を継続して行う。 ②教員間における学生情報の共有と組織的な学修支援体制を強化する。 ③成績不振者に対する学習能力向上を目指したきめ細かな指導体制を構築する。 ④中途退学者や留年者の発生を防止するとともに、休学者への支援を強化する。 ⑤教職員間の連携・協力体制を強化する。 ⑥ＩＣＴ機器を活用した授業環境の整備及び授業方法の改善を進める。(2021 年度) ⑦語学学習支援システム（ＣＡＬＬシステム）を設置する。 ⑧英語その他の語学習得に向けた学修環境を整備する。 ⑨外国人留学生への日本語教育を充実する。 **（２）ＴＡ等の活用をはじめとする学修支援の充実** ①ＴＡ（ティーチング・アシスタント）制度を整備し有効活用を図る。(2021 年度) ②ＴＡ制度への理解と基礎的知識の習得を目的とした研修会を実施する。 ③アドバイザーグループによる学年横断の学習機会を充実する。 ④コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上とともに、学生間の交流を促進する。 ⑤教育補助者の活用に係る制度設計及び運用体制のモデルを構築する。 ⑥ＩＲの活用による教育分析を行い、学業成績を踏まえた学修支援体制を構築する。 ⑦複数学科及び複数学年による合同講義等を実施し、教育機会の共有と充実を図る。

中　期　目　標	中　期　計　画
３　キャリア支援に関する目標 本学の使命・目的の実現に向けた人材育成を推進するため、初年次より全学的な国家試験対策を推進し、国家試験の全員合格を目指す。 また、学生の進路支援としてキャリア教育を積極的に推進するとともに、社会的・職業的自立に関する就職・キャリア支援に関する組織体制を整備する。	**３　キャリア支援に関する目標を達成するための計画** **（１）高い国家試験合格率の達成** ①国家試験等対策委員会を設置する。(2020 年度) ②国家試験対策のための特別講義を開講する。 ③初年次からＣＢＴ（コンピュータ・ベースト・テスティング）を導入するとともに、ＣＢＴに代わる業者模試の検討を継続する。 ④学習の個別支援、特別セミナー等により弱点の克服に努める。 ⑤ＩＲの活用による成績分析を基にした学習プログラムを構築する。 ⑥模擬試験を実施し活用する。 **（２）教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する支援体制の整備** ①キャリア支援センター（仮称）を設置する。(2021 年度) ②ボランティア活動への単位認定制度を構築する。(2022 年度) ③職能団体の加入率を高める（目標 100%)。(2023 年度) ④卒後研修を毎年 1 回開催する。(2023 年度) ⑤学部学生の学会発表・論文掲載を推進する（目標 20%)。(2023 年度) ⑥病院見学、個別就職相談、学内合同就職説明会の実施等により就職支援体制を強化する。 ⑦卒業後の就職指導及び大学院進学指導体制を整備する。
４　学生サービスに関する目標 全学的な連携による学生支援体制を構築し、より充実した学生サービスの向上、奨学金等の経済的支援の充実、学生への福利・厚生支援、健康管理支援及び安全確保等に努めるとともに、学生が本義である学習や学生生活に専心し、自らの成長を実感できる環境を整備する。	**４　学生サービスに関する目標を達成するための計画** **（１）学生の福利厚生の充実及び学生生活の安定のための支援** ①学生生活アンケートにより学生のニーズを調査し分析する。(2020 年度) ②学生に対する健康管理を継続して強化する。 ③予防接種などの感染管理への組織的な取組みを強化する。 ④医療安全・医療事故防止への意識を高める教育を推進する。 ⑤学生行事（運動会、大学祭等）への支援を強化する。 ⑥部、サークル活動への支援を強化する。 ⑦奨学金など生活・福利厚生面での経済的支援を充実する。 ⑧成績優秀な学生に対する授業料減免や奨学金等の経済的支援を強化する。 ⑨学生ポータル機能を充実し活用する。 ⑩学生食堂、ラウンジ等福利厚生施設の整備による学生サポートを充実する。 ⑪ＩＣ機能付学生証を整備し活用する（出欠管理、入退館、証明書申請、図書館等)。
５　学修環境の整備に関する目標 教室、自主的学習・課外活動スペース等、学生の学修を支援するための施設・設備等について、学生数・教育内容・教育方法等を踏まえ適切に整備し、利用者の安全の確保に万全を期すとともに、ネットワーク環境や情報通信技術（ＩＣＴ）機器の充実とその活用の促進を図る。 また、図書及び学術情報サービスを提供する体制の更なる強化を図る。 さらに、学修環境の適切性に関する定期的な点検・評価を行う。	**５　学修環境の整備に関する目標を達成するための計画** **（１）校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理** ①衛生委員会による施設巡視を定期的に実施する。 ②ＩＣＴを活用した教育システムを整備充実する。 ③情報処理室のパソコンを充実するとともに、動作の安定性を維持する。 ④国家試験対策のための自学・自習スペースを整備充実する。 ⑤グラウンド機能の確保についての検討を継続する。 **（２）実習施設、図書館等の有効活用** ①実習施設による学生指導、指導者との意見交換等のための遠隔通信環境を整備する。 ②電子ジャーナル・電子ブックを充実し有効活用を図る。(2022 年度) ③検索端末を増設するとともに、学術情報のセキュリティを強化する。 **（３）バリアフリーをはじめとする施設・設備の利便性** ①学内及び大学周辺のバリアフリー状況について調査し必要に応じ改善する。(2020 年度) **（４）授業を行う学生数の適切な管理** ①履修者数に応じた授業コマ数を設定する。(2021 年度) ②外国語クラスにおける少人数講義を推進する。
６　学生の意見・要望への対応に関する目標 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生の意見・要望を的確に把握し、学修支援及び学生生活・学修環境等の改善に活用する。 また、学生一人一人の多様なニーズに対応するための健康・生活面の相談支援体制の充実を図る。	**６　学生の意見・要望への対応に関する目標を達成するための計画** **（１）学修支援に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用** ①学修支援に関する学生アンケートを毎年実施・分析し活用する。(2020 年度) ②授業評価アンケートを毎年実施・分析し活用する。(2021 年度) ③学友会が設置する目安箱を通して学生の意見等を収集・分析し活用する。 **（２）心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用** ①教員と学生との定期的な面談を継続して実施する。 ②学生カルテを充実し活用する。

中　期　目　標	中　期　計　画
	③学生相談室（臨床心理士）による心の悩み相談を継続して実施する。 ④教職員と学生相談室との緊密な連携協力体制を強化する。 **（３）学修環境に関する学生の意見・要望の把握・分析と検討結果の活用** ①学生生活に関するアンケートを実施・分析し活用する。 ②卒業生対象のキャリアアンケートを実施・分析し活用する。(2023 年度) ③同窓会組織の設立や卒業生ネットワークの構築を通して、在学生へのサポート体制やキャリア支援の充実を図る。
Ⅲ　卒業認定、教育課程、学修成果に関する目標	**Ⅲ　卒業認定、教育課程、学修成果に関する目標を達成するための計画**
１　単位認定、卒業認定、修了認定に関する目標 本学の使命･目的を実現するため､学生が修得すべき知識･技能等、当該学位にふさわしい学修成果を示したディプロマ･ポリシーを定め公表するとともに､授与される学位の信頼性を高めるため､ディプロマ･ポリシーに基づく厳格な成績評価、卒業・修了認定を経て適切な学位授与を行う。	**１　単位認定、卒業認定、修了認定に関する目標を達成するための計画** **（１）教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーの策定と周知** ①入学時オリエンテーション等において、ディプロマ・ポリシーについて説明を行う等により学生への周知を徹底する。 ②ディプロマ・サプリメントを策定するとともに、学修成果の数値化を図る。(2022 年度) **（２）ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業・修了認定基準等の策定と周知** ①オリエンテーション、授業時における履修の手引きに関する説明を徹底する。 ②アセスメント・ポリシーを策定する。(2021 年度) **（３）単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等の厳正な適用** ①ＧＰＴ（グレート・ポイント・トータル）制度による進級・卒業判定、退学勧告等の評価及び指導を行う。(2023 年度) ②ＣＢＴ等を利用し、標準化された学修成果の測定を実施する。(2022 年度) ③演習・実習科目の 30%以上においてルーブリックを活用する。(2022 年度) ④アクティブラーニングの実践を促し、学習意欲と学習速度の向上を図る。 ⑤ＣＡＰ制、シラバス、ＧＰＡ等を連携させ運用することにより、教育方法の改善とともに、学生の授業外学修時間の増加を推奨する。
２　教育課程及び教授方法に関する目標 カリキュラム･ポリシー及びディプロマ･ポリシーに基づく体系的な教育課程の構築に向け、初年次教育、教養教育、専門教育、キャリア教育等の観点から、教育課程及び教授方法についての検討を行うとともに､学生が主体的な学びを継続して実践できるよう､両ポリシーの定期的な点検と検証を行う。 また､近年のグローバル化や情報化の進展､学術の動向や社会からの要請等を踏まえ､各授業科目を適切に組み合わせる等の措置を講じる。	**２　教育課程及び教授方法に関する目標を達成するための計画** **（１）カリキュラム・ポリシーの策定と周知** ①カリキュラム・ポリシーの明確化を継続して行う。 ②新学期オリエンテーション、授業時におけるカリキュラム・ポリシーの周知を徹底する。 **（２）カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性** ①カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの関係を履修の手引き等に明示するとともに、定期的な点検を行い、両者の整合性の検証を行う。 ②履修系統図を明示するとともに、定期的な点検及び必要に応じた見直しを行う。 ③カリキュラム・ポリシーと履修系統図、シラバスの関連について定期的な点検を行い。必要に応じ見直しを行う。 **（３）カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成** ①国際医療福祉大学との連携を強化する（e-learning システムの共有等)。(2023 年度) ②大分大学等大学間交流協定締結大学との教育・研究連携を推進する。 ③ＩＲ情報（学修時間、実態、授業評価結果、学修成果、資格取得実績、就職実績等）に基づき、教育課程編成の見直しを実施する。 **（４）教養教育の実施** ①情報リテラシー教育（情報通信・情報処理能力の育成）を継続して必須化する。 ②ＩＣＴ利用による双方向型授業を継続して実施する。 ③国際医療福祉大学との協同によるＶＯＤ教養科目を開講する。(2022 年度) ④数理・データサイエンス科目を全学科で継続して実施する。 ⑤専攻科学生の一般科目授業（語学）への参加を促進する。 **（５）教授方法の工夫・開発と効果的な実施** ①アクティブラーニング科目の導入を推進する（全科目の 50%)。(2024 年度) ②ティーチング・ポートフォリオを作成し、教育評価のフィードバックを促進する。(2024 年度) ③事前事後学修の開講を推進する（全科目の 80%)。(2021 年度) ④全員参加型のＦＤ研修を継続して開催する。 ⑤ＦＤの体系化（ミクロＦＤ、ミドルＦＤ、マクロＦＤ）を推進する。(2024 年度) ⑥学生参加によるＦＤ研修を実施する。(2022 年度) ⑦国際医療福祉大学との共同ＦＤ研修を実施する（ＦＤ実施協定の締結)。(2022 年度) ⑧臨床及び教員の合同研究会を開催する。

中　期　目　標	中　期　計　画
	⑨オープンな教育リソースを作成し活用する。(2023 年度) ⑩オープンクラスを実施し、教員同士の授業参加を推進する。(2021 年度) **（６）教育と臨床の連携** ①教員の積極的な臨床参加を推進する。 ②大学教職員とグループ職員の人事交流や学部教育への参画を通じた交流を促進する。 ③大学とグループ施設及び教育効果の高い実習施設との連携教育を確立するとともに、学生実習を充実する。 ④学科間連携授業、関連職種連携教育や実習の更なる強化を図る。 ⑤関連職種連携教育を軸とした学生と教員の学科間の交流を推進する。 **（７）専門性の向上に向けた大学院の設置検討** ①大学院設置に向けた検討及び国際医療福祉大学大学院との連携協力体制の構築を行う。 ②学部卒業生の国際医療福祉大学大学院への進学を推進する（目標 20%)。(2023 年度) ③教員の国際医療福祉大学大学院における教育及び研究への積極的な参加を推進する。 ④研究法に関する学習を充実する。
３　学修成果の点検・評価に関する目標 ３つのポリシーを踏まえた体系的で組織的な大学教育についての点検・評価を継続的に実施するとともに、教授方法の開発や学修成果の点検・評価結果のフィードバックを通じた可視化・検証を行い、教育課程、教育内容・方法及び学修指導等の更なる改善を図る。	**３　学修成果の点検・評価に関する目標を達成するための計画** **（１）３つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用** ①卒業時に教育目標の見直しが可能となる項目を含めた学生アンケートを実施する（回収率 80%以上)。(2022 年度) **（２）教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けた学修成果の点検・評価結果のフィードバック** ①学生と教員双方へ教育内容の評価をフィードバックし、必要に応じ改善する。
Ⅳ　教学マネジメント、教員・職員配置、研修及び研究支援に関する目標	**Ⅳ　教学マネジメント、教員・職員配置、研修及び研究支援に関する目標を達成するための計画**
１　教学マネジメントの機能性に関する目標 学長が適切にリーダーシップを発揮できる環境及び教学の運営体制を整備し、責任と役割を明確にした教学マネジメントを推進する。	**１　教学マネジメントの機能性に関する目標を達成するための計画** **（１）大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップの確立・発揮** ①学長を中心とした教学マネジメント、カリキュラムコーディネーター体制に関する規程を策定する。(2020 年度) ②学長を補佐する体制を構築する。 **（２）権限と責任の所在の明確化に配慮した教学マネジメントの構築** ①組織・業務の明確化を図るとともに、点検・改善を行い効果的・機能的な運営を行う。 ②各種委員会等運営組織の使命・役割の明確化を図る（規程の整備等)。 **（３）職員の配置と役割の明確化等による教学マネジメントの機能性** ①事務組織における業務内容の明確化と共有化を図る。 ②事務職員の適正配置等により業務の効率化を図る。
２　教員の配置・職能開発等に関する目標 教員の資質向上を図るため、組織的なファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）活動を積極的・継続的に実施し、教員の教育能力の向上及び研究活動の活性化を図るとともに、社会貢献等の諸活動についての資質向上を図る。 また、教育・研究・社会活動等に関する教員の業績を適切に評価するとともに、ＦＤ活動の定期的な点検を実施し活性化を促す。	**２　教員の配置・職能開発等に関する目標を達成するための計画** **（１）ＦＤをはじめとする教育内容・方法等の改善の工夫・開発と効果的な実施** ①ティーチング・ポートフォリオを作成する（全教員)。(2022 年度) ②アセスメント・ポリシーを踏まえた成績評価に関するＦＤ活動を実施する。 ③国際医療福祉大学との協定に基づく教員・職員の人事交流を実施する。 **（２）教育目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任等による教員の確保と配置** ①教職員の業務評価方法の検証及び適正な業績評価を実施する。 ②教員の適正配置等により教育の質の向上を図る。 ③学生の大学院進学を促す教育を推進する。 **（３）女性教職員のキャリア向上に関する機会の積極的な提供** ①男女共同参画を推進する。 ②仕事と育児の両立など、教職員のワークライフバランスに配慮した施策を推進する。
３　職員の研修に関する目標 適切かつ効果的な大学運営を実現するため、組織的なスタッフ・ディベロップメント（ＳＤ）活動を積極的・継続的に実施し職員の資質の向上を図る。	**３　職員の研修に関する目標を達成するための計画** **（１）ＳＤをはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み** ①グローバル化対応のためのＳＤ活動を実施する。 ②専門性の高い職員の養成に係るＳＤ活動を他大学等との連携により実施する。 ③管理運営能力・企画能力の向上及び専門知識習得のためのＳＤ活動を実施する。 ④リサーチ・アドミニストレーター（ＵＲＡ）の養成・確保のためのＳＤ活動を実施する。

中　期　目　標	中　期　計　画
４　研究支援に関する目標 大学の使命・目的を反映した特色ある研究を推進し、その成果を地域・社会に還元するため、設備等研究環境の整備、研究力の強化及び外部研究資金の獲得に向けた組織的な支援を推進する。 また、研究活動における不正行為及び研究費の不正使用防止のための研究倫理教育等の施策を推進する。	**４　研究支援に関する目標を達成するための計画** **（１）研究環境の整備と適切な運営・管理** ①研究教員の国際公募を実施する。(2023 年度) ②テニュアトラック制を導入する。(2023 年度) ③専任教員（講師以上）の博士号取得率を向上させる（100%達成)。(2023 年度) ④ライフイベント等で研究が中断した専任教員の研究復帰を促す支援制度を構築する。(2023 年度) ⑤学部・領域横断的な研究及び研究プロジェクトを推進する。 ⑥他大学等との協定等に基づくプロジェクト研究を推進する（5 件以上)。 ⑦過去３年以内に３論文以上（査読付）を発表する教員の割合を向上させる（50%以上)。 ⑧オープンアクセスポリシーを策定し公開する。(2023 年度) ⑨機関リポジトリを構築し研究成果を公表する。(2023 年度) ⑩研究業績について、ホームページ等を通して公開する。 ⑪産学連携推進室（仮称）を設置する。(2023 年度) ⑫リサーチ・アドミニストレーター（ＵＲＡ）又は産学連携コーディネーターを育成・確保する。(2023 年度) ⑬産学連携のための規程及び契約関係様式等を整備する。 ⑭知的財産戦略を策定する。(2023 年度) ⑮クロスアポイントメント制度を導入し、企業等との人事交流を推進する。 **（２）研究倫理の確立と厳正な運用** ①産学連携に係るリスクマネジメント研修会を実施する。(2022 年度) ②研究倫理講習会及び研究倫理審査を継続して実施する。 **（３）研究活動への資源の配分** ①学内研究費を拡充する。 ②学部・学科内における合同研究を推進する。 **（４）競争的資金の獲得** ①科学研究費の獲得に向けた講習会等を継続して実施する。 ②外部研究費の公募情報等の提供システムを整備する。 ③外国語（英語等）による学術論文の作成を支援する。(2023 年度) ④外部研究費の採択率を向上させる（50%以上)。
Ⅴ　組織体制、自己点検・評価、ＰＤＣＡサイクルに関する目標	**Ⅴ　組織体制、自己点検・評価、ＰＤＣＡサイクルに関する目標を達成するための計画**
１　内部質保証の組織体制に関する目標 大学の使命･目的の実現に向けた組織的な内部質保証システムを構築することにより、恒常的･継続的な教育の質の保証・向上に取り組む。 また、学内の取組みを円滑に進めるため、内部質保証を担う全学的体制を整備し機能させる。	**１　内部質保証の組織体制に関する目標を達成するための計画** **（１）内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立** ①内部質保証の推進に関する基本方針を策定するとともに、推進体制を整備する。(2020 年度) ②内部質保証推進委員会を設置する。(2020 年度) ③内部質保証システム（機能）を継続して向上させる。
２　内部質保証のための自己点検・評価に関する目標 大学の使命・目的及び３つのポリシーを踏まえながら、ＩＲ機能を活用した自己点検・評価を定期的・効果的に実施する。 また、自己点検・評価の有効性等を検証し、必要な改善を行い機能の向上を図る。	**２　内部質保証のための自己点検・評価に関する目標を達成するための計画** **（１）内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有** ①自己点検・評価委員会を設置する。(2019 年度) ②自己点検・評価結果の改善に繋がるＰＤＣＡサイクルを構築する。(2020 年度) ③自己点検・評価の実施に係る規程等を策定する。(2021 年度) **（２）ＩＲ（Institutional Research）を活用した調査・データの収集と分析** ①ＩＲ室を設置する。(2020 年度) ②ＩＲ室に専任職員を配置する。(2022 年度) ③ＩＲ専任職員による定期的な研修等を実施する。(2022 年度)
３　内部質保証の機能性に関する目標 認証評価等における質保証関係項目を踏まえ、ＰＤＣＡサイクルの運用プロセス等を構築し、大学全体の改善・改革につながる内部質保証を機能させる。	**３　内部質保証の機能性に関する目標を達成するための計画** **（１）内部質保証のための学部、学科及び専攻科等と大学全体のＰＤＣＡサイクルの仕組みの確立とその機能性** ①内部質保証推進委員会において、学部、専攻科その他の組織におけるＰＤＣＡサイクルを機能させる取組みを推進する。

５．資　料

概　況

福岡国際医療福祉大学　概況

(1) 学部・学科等

福岡国際医療福祉大学	医療学部（4 年課程）	理学療法学科
		作業療法学科
		視能訓練学科
	言語聴覚専攻科（2 年課程）	

(2) 学部・学科等の学生数　(2021 年 3 月 31 日現在)

学校名		入学定員	収容定員	在籍学生数
医療学部	理学療法学科	40	160	90
	作業療法学科	40	160	90
	視能訓練学科	40	160	85
言語聴覚専攻科		40	80	47
	合計	160	560	312

(3) 異動者数　(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

学校名		休学者	退学者	除籍者
医療学部	理学療法学科	0	0	0
	作業療法学科	0	0	1
	視能訓練学科	0	0	0
言語聴覚専攻科		0	0	0
	合計	0	0	1

(4) 教員数　(2021 年 3 月 31 日現在)

学校名		教授	准教授	講師	助教	合計
医療学部	理学療法学科	7	0	5	1	13
	作業療法学科	7	2	2	2	13
	視能訓練学科	5	3	1	4	13
言語聴覚専攻科		1	0	0	3	4
	合計	20	5	8	10	43

(5) 職員数　(2021 年 3 月 31 日現在)

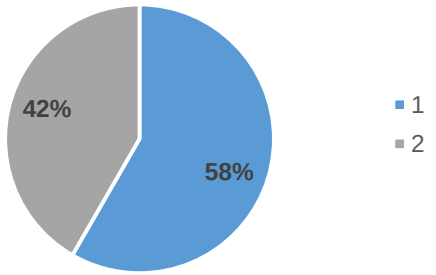
事務系	その他	計
28	2	30

学生生活調査報告

2020年度　学生生活アンケート集計結果

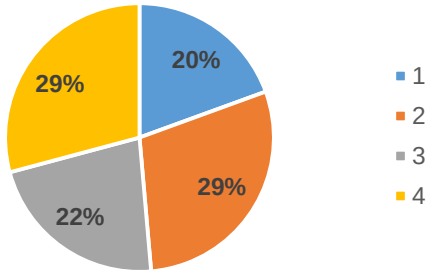
問1. あなたの学年を選んでください

回答	人数
1.1年生	42
2.2年生	30
計	72



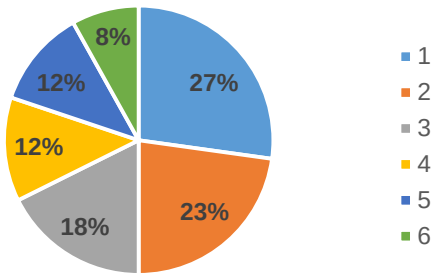
問2. あなたの学科・専攻科を選んでください

回答	人数
1.理学療法学科	14
2.作業療法学科	21
3.視能訓練学科	16
4.言語聴覚専攻科	21
計	72



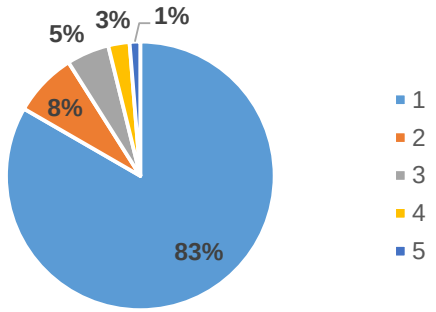
問3. 通学に利用している交通手段を選んでください。

回答	人数
1.バス	37
2.自転車	31
3.徒歩	24
4.地下鉄	17
5.JR	16
6.その他	11
計	136



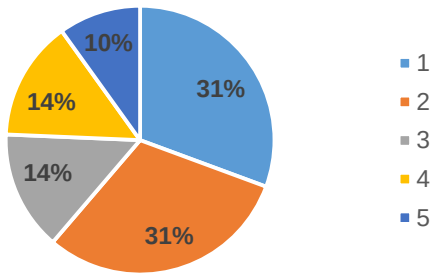
問4. 現在住んでいる地域のどのような活動に参加していますか。

回答	人数
1.参加していない	65
2.お祭りやイベント	6
3.地域の清掃・防災活動	4
4.高齢者・障碍者への支援活動	2
5.趣味や文科系サークル活動	1
計	78



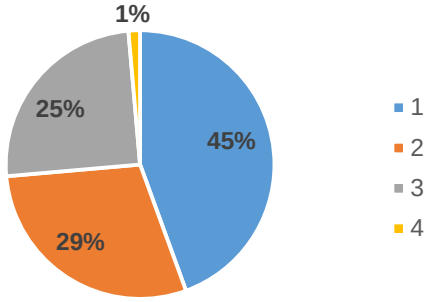
問5. 大学周辺地域は、現状よりも何が必要だと思いますか。

回答	人数
1.学習支援のための施設	34
2.文化・娯楽のための施設	34
3.利便性の高い公共交通機関網	16
4.その他	16
5.就職先として有用な病院・施設	11
計	111



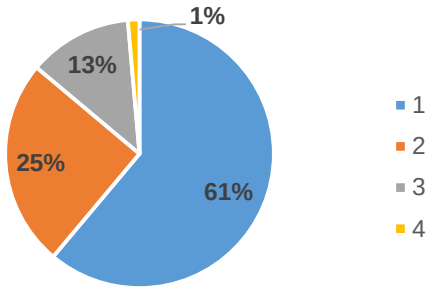
問6. あなたは自宅(親元)から通学していますか。それとも一人暮らし・下宿をしていますか。

回答	人数
1.福岡市内の自宅	32
2.福岡市以外の県内の自宅	21
3.福岡市内で一人暮らし	18
4県外の自宅	1
計	72



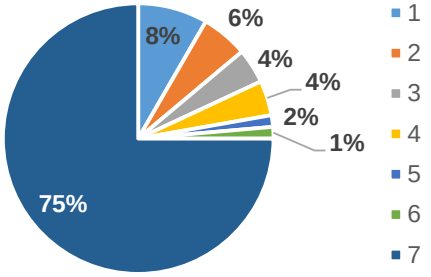
問7. あなたの、1か月の生活費（食費・交通費・通信費・交友費等）はおよそいくらですか。

回答	人数
1.60,000円以下	44
2.無記入	18
3.60,001～80,000円	9
4.160,001円以上	1
計	72



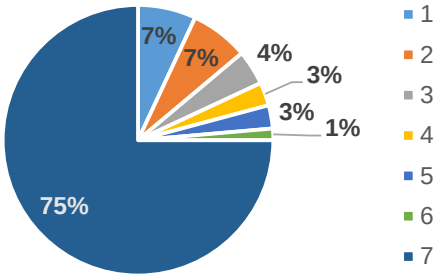
問8. あなたの、1か月の生活費（住居費・光熱費・食費・交通費・通信費・交友費等）はおよそいくらですか。

回答	人数
1.80,001～100,000円	6
2.120,001～140,000円	4
3.60,001～80,000円	3
4.100,001～120,000円	3
5.60,000円以下	1
6.140,001～160,000円	1
7.無記入	54
計	72



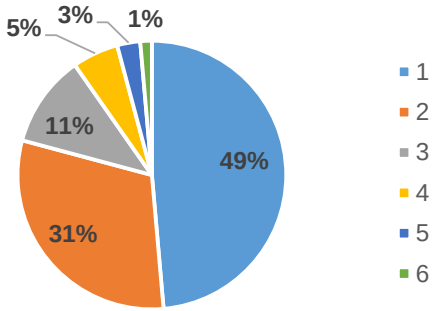
問9. 毎月の仕送り金額はおよそいくらですか。

回答	人数
1.40,001～60,000円	5
2.0円(仕送りなし)	5
3.40,000円以下	3
4.80,001～100,000円	2
5.60,001～80,000円	2
6.120,001～140,000円	1
7.無記入	54
計	72



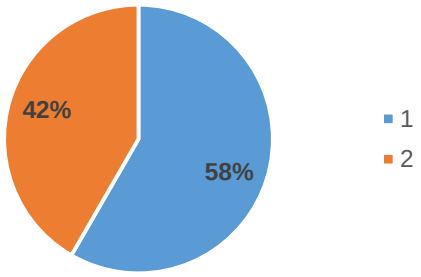
問10. あなたの1ヶ月の収入（仕送り・小遣い・アルバイト代・奨学金等）はおよそいくらですか。

回答	人数
1.40,000円以下	35
2.40,001～60,000円	22
3.60,001～80,000円	8
4.120,001～140,000円	4
5.80,001～100,000円	2
6.100,001～120,000円	1
計	72



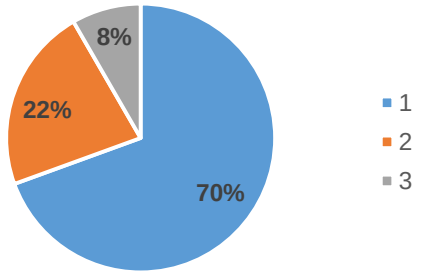
問11．あなたはアルバイトをしていますか。

回答	人数
1.はい	42
2.いいえ	30
計	72



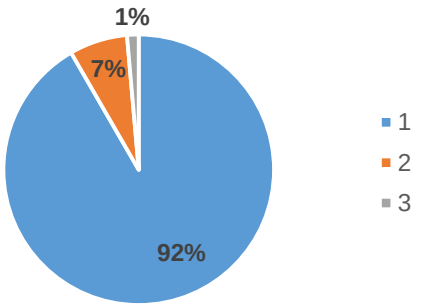
問12．朝食は食べていますか。

回答	人数
1.毎日食べる	50
2.時々食べる	16
3.食べていない	6
計	72



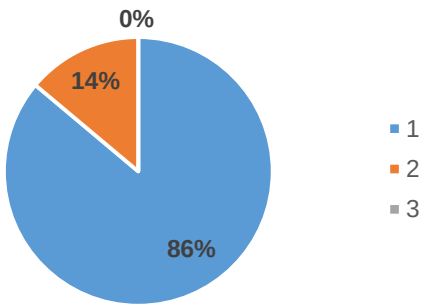
問13．昼食は食べていますか。

回答	人数
1.毎日食べる	66
2.時々食べる	5
3.食べていない	1
計	72



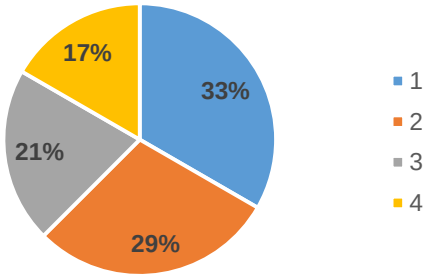
問14．夕食は食べていますか。

回答	人数
1.毎日食べる	62
2.時々食べる	10
3.食べていない	0
計	72



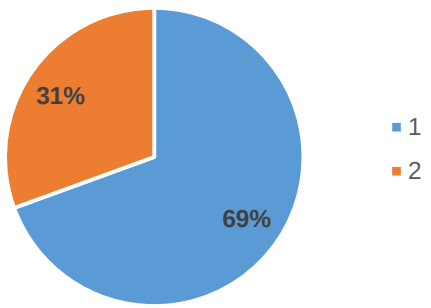
問15．本学以外の学生と交流はありますか。

回答	人数
1.たまにある	24
2.まったくない	21
3.よくある	15
4.ほとんどない	12
計	72



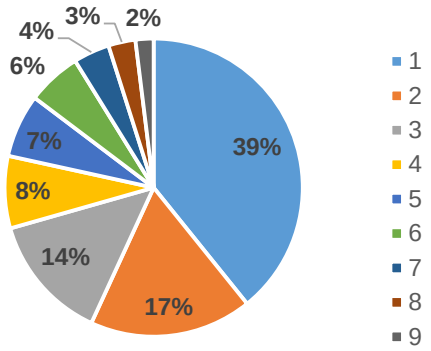
問16．学内・学外の部・サークル活動に参加していますか。

回答	人数
1.どちらにも参加していない	50
2.学内の部・サークル活動に参加	22
計	72



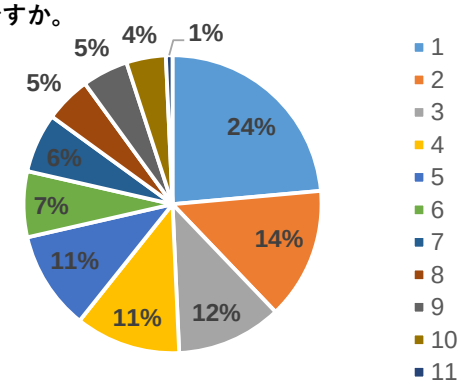
問17．部・サークル活動で何を得たと思いますか。

回答	人数
1.参加していないのでわからない	40
2.友人	18
3.趣味・興味の満足	14
4.先輩後輩との人間関係	8
5.その他	7
6.授業では得られない知識・教養・技能	6
7.忍耐力・責任感	4
8.集団意識・連帯感	3
9.リーダーシップの養成	2
計	102



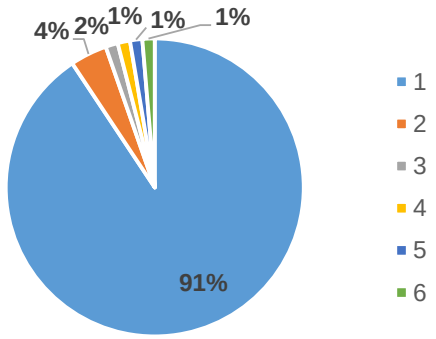
問18．大学行事（大学祭・運動会）に参加するとき、その動機は何ですか。

回答	人数
1.面白いから（面白そうだから）	33
2.友人ができるから（できそうだから）	20
3.有意義だから（有意義そうだから）	16
4.有意義だから（有意義そうだから）	16
5.在学中の義務だと思う	15
6.友人に誘われるから	10
7.なんとなく	9
8.授業や単位に関係するから	7
9.その他	7
10.暇だから	6
11.サークルで義務付けられているから	1
計	140



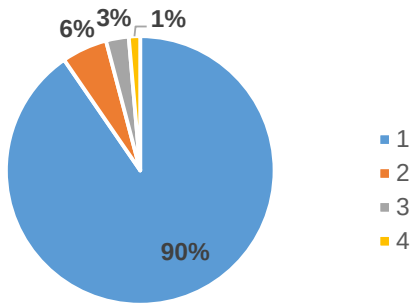
問19．悪質商法の被害に遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。

回答	人数
1.ない	68
2.キャッチセールス	3
3.しつこい新聞勧誘	1
4.架空・不当請求	1
5.マルチ商法	1
6.それ以外の契約トラブル	1
計	75



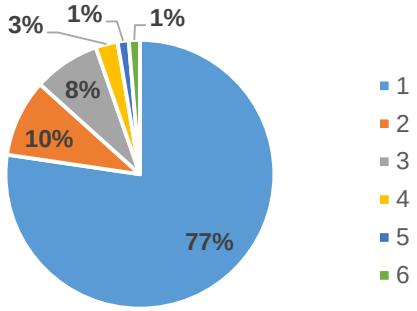
問20．SNS関連のトラブルに遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。

回答	人数
1.ない	66
2.ウイルスの侵入	4
3.書きこみやメールでの誹謗中傷、いじめにあっ	2
4.書きこみやメールで執拗に誘われた	1
計	73



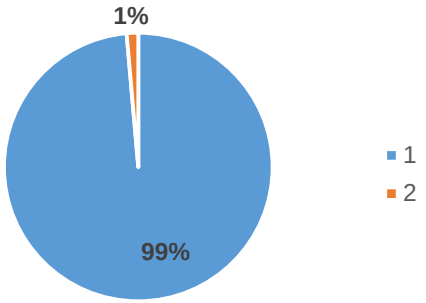
問21．その他質問になかった被害に遭ったことはありますか。それはどのような被害でしたか。

回答	人数
1.ない	58
2.いたずら電話や不審な電話・メールがきた	7
3.宗教勧誘	6
4.セクシャルハラスメント被害を受けた	2
5.不審者（車）が徘徊	1
6.その他	1
計	75



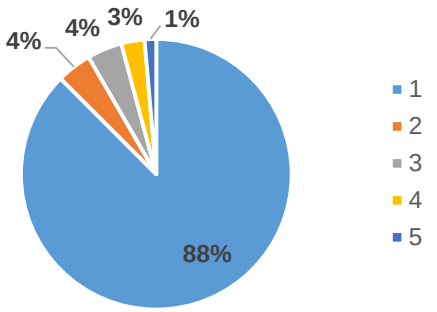
問22．人身事故の加害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。

回答	人数
1.ない	71
2.二輪車（バイク・原付）運転中	1
計	72



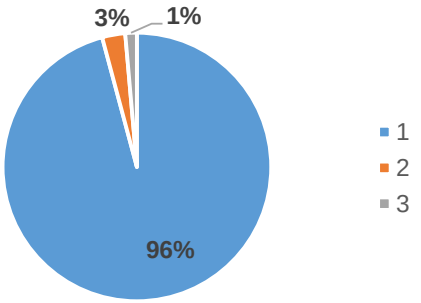
問23．人身事故の被害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。

回答	人数
1.ない	63
2.自転車運転中	3
3.徒歩	3
4.自動車同乗中	2
5.二輪車（バイク・原付）運転中	1
計	72



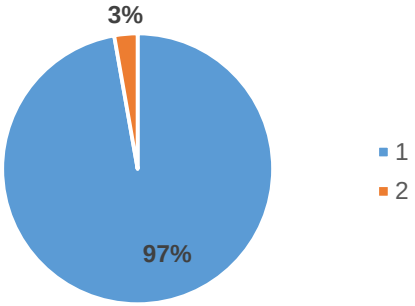
問24．物損事故の加害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。

回答	人数
1.ない	69
2.自転車運転中	2
3.自動車運転中	1
計	72



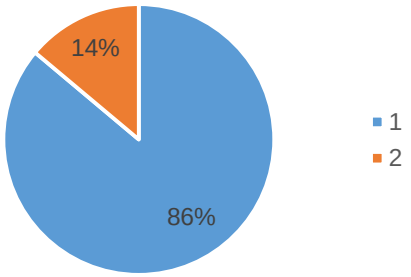
問25．物損事故の被害者になったことはありますか。それはどのような状況でしたか。

回答	人数
1.ない	70
2.自転車運転中	2
計	72



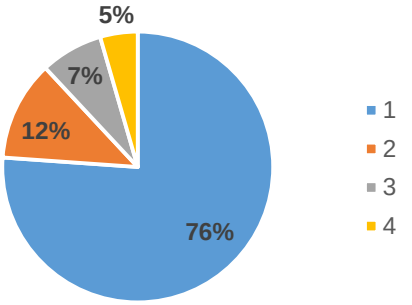
問26．あなたは過去1年間(1年生は入学してから)、何らかのボランティア活動に参加しましたか。

回答	人数
1.ない	62
2.ある	10
計	72



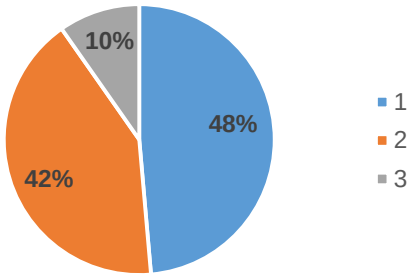
問27．ボランティア活動に参加したときの動機として、もっともあてはまるもの１つを選んでください。

回答	人数
1.無記入	51
2.その他	8
3.自ら進んで	5
4.大学の掲示等をみて	3
計	67



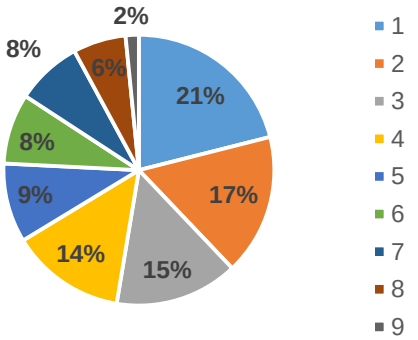
問28．ボランティア活動に関心がありますか。

回答	人数
1.関心はあるが、在学中には活動に参加しない	35
2.関心があり、今後在学中に活動に参加したい	30
3.関心がない	7
計	72



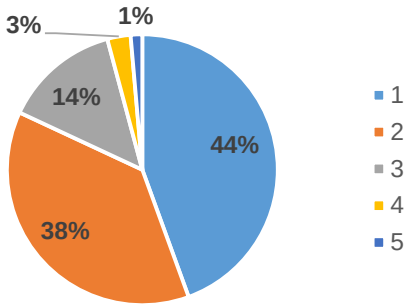
問29．今後、ボランティア活動に参加するとしたら、どんな活動に参加したいと思いますか。

回答	人数
1.子ども・青少年に関するボランティア	40
2.高齢者に関するボランティア	32
3.障害児・者に関するボランティア	28
4.芸術・文化・スポーツ活動等に関するボランテ	26
5.保健医療に関するボランティア	18
6.まちづくりに関するボランティア	16
7.自然環境保全に関するボランティア	15
8.災害支援・防災に関するボランティア	12
9.その他のボランティア	3
計	190



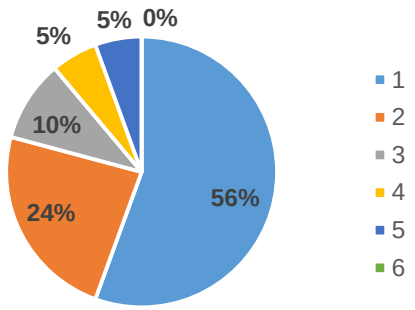
問30．大学生活について、あなたの充実度を記入してください。［学習面］

回答	人数
1.まあまあ充実している	32
2.ふつう	27
3.とても充実している	10
4.あまり充実していない	2
5.不満がある	1
計	72



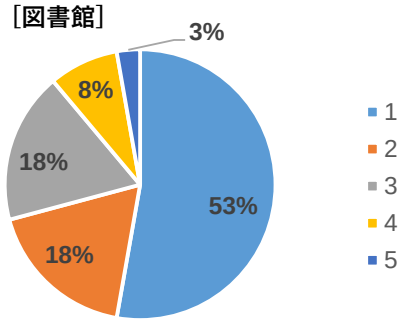
問30．大学生活について、あなたの充実度を記入してください。［部・サークル活動］

回答	人数
1.ふつう	40
2.あまり充実していない	17
3.不満がある	7
4.とても充実している	4
5.まあまあ充実している	4
6.わからない	0
計	72



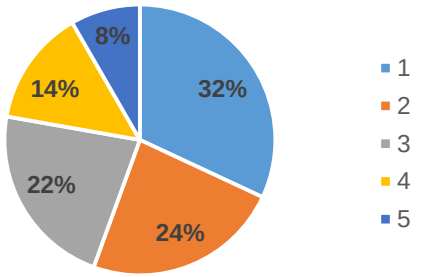
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［図書館］

回答	人数
1.まあまあ満足している	38
2.とても満足している	13
3.わからない	13
4.あまり満足していない	6
5.満足していない	2
計	72



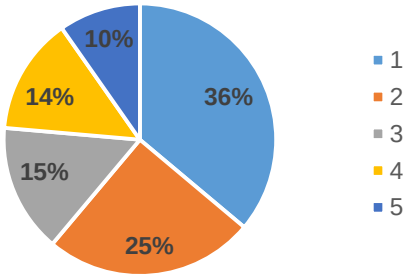
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［食堂］

回答	人数
1.まあまあ満足している	23
2.とても満足している	17
3.あまり満足していない	16
4.満足していない	10
5.わからない	6
計	72



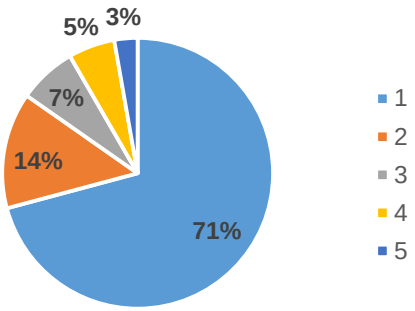
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［体育館］

回答	人数
1.わからない	26
2.まあまあ満足している	18
3.とても満足している	11
4.あまり満足していない	10
5.満足していない	7
計	72



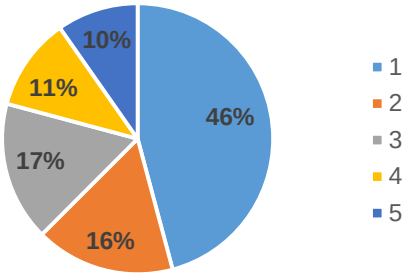
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［テニスコート］

回答	人数
1.わからない	51
2.まあまあ満足している	10
3.満足していない	5
4.とても満足している	4
5.あまり満足していない	2
計	72



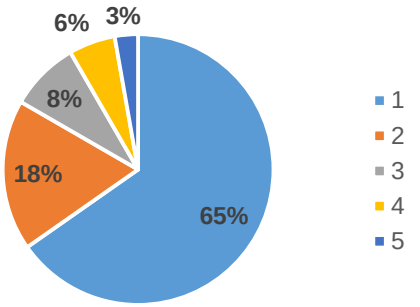
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［学生窓口］

回答	人数
1.まあまあ満足している	33
2.とても満足している	12
3.あまり満足していない	12
4.わからない	8
5.満足していない	7
計	72



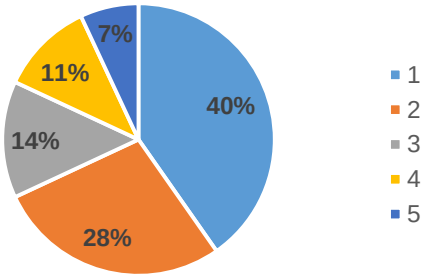
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［保健室］

回答	人数
1.わからない	47
2.まあまあ満足している	13
3.とても満足している	6
4.あまり満足していない	4
5.満足していない	2



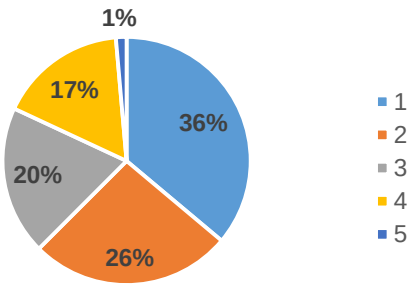
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［駐輪場］

回答	人数
1.わからない	29
2.まあまあ満足している	20
3.あまり満足していない	10
4.とても満足している	8
5.満足していない	5



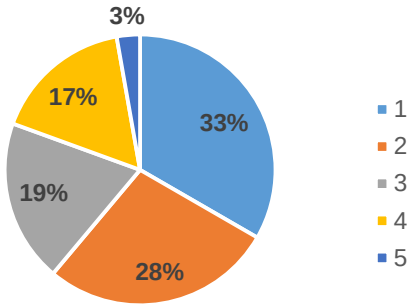
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［ラウンジ］

回答	人数
1.まあまあ満足している	26
2.あまり満足していない	19
3.満足していない	14
4.とても満足している	12
5.わからない	1



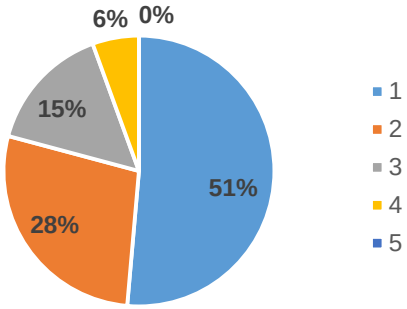
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［学生ロッカー］

回答	人数
1.まあまあ満足している	24
2.あまり満足していない	20
3.とても満足している	14
4.満足していない	12
5.わからない	2



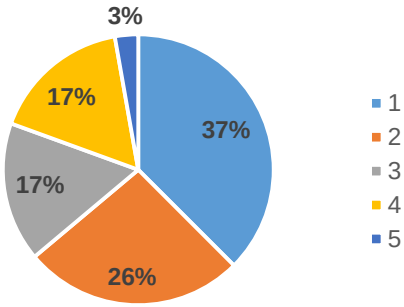
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［教室（実習室を含む）］

回答	人数
1.まあまあ満足している	37
2.とても満足している	20
3.あまり満足していない	11
4.満足していない	4
5.わからない	0



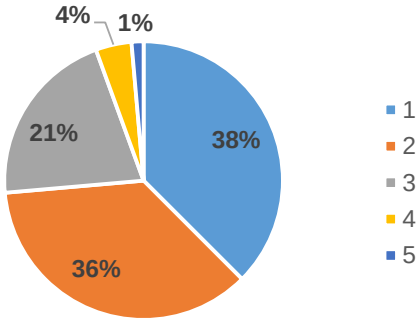
問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［情報処理室］

回答	人数
1.満足していない	27
2.まあまあ満足している	19
3.とても満足している	12
4.あまり満足していない	12
5.わからない	2



問31．以下の施設・設備等についてあなたの満足度を記入してください。［Wi-fi環境］

回答	人数
1.満足していない	27
2.あまり満足していない	26
3.まあまあ満足している	15
4.とても満足している	3
5.わからない	1



2020年度　学生生活アンケート集計結果

問11で「はい」と答えた人のアルバイト内容

居酒屋
カラオケスタッフ
飲食店のキッチン
ドーム内での飲食業、西新の商店街の飲食店
飲食店　イベント
接客
飲食店
天ぷら専門店陣屋二丈店
モスバーガー
ミスド
スーパーの品出し
飲食店　塾
アンケートモニター
飲食店
農業
品出し
接客業
飲食店
子供写真館
PayPay 受け付けフロント及びビール売り子　　デイケア
飲食店
スーパーのレジ
スポーツ用品店の店員
お惣菜を作る、掃除、品だし
倉庫
飲食店
飲食店
スーパーのレジ打ち
スーパーのレジ打ちたまに品出し
放課後等デイサービス
飲食業
焼肉屋
指導員
塾講師
飲食店
居酒屋、アパレル、売り子
居酒屋
ドラッグストア、飲食店
居酒屋

2020年度　学生生活アンケート　集計結果（自由記述）

問32. 上記を含め、各学内施設・物品で整備、保有してほしいなど、ご意見がある方は記入してください。

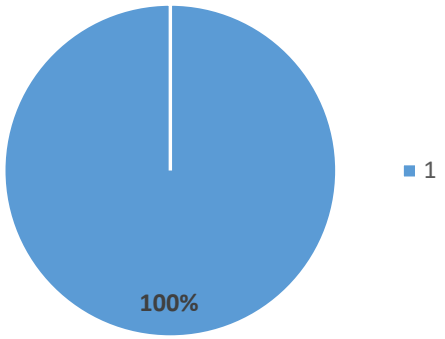
		学生意見
1 全体的な内容・学習面	1	5階に電子レンジがほしい。チャイムを鳴らして欲しい。
	2	教室の埃がすごいので掃除して欲しい。
	3	大学のいろいろな判断が遅い。
	4	大学の開館について。日曜日の開館を切に願います。（ここでは、緊急事態宣言やコロナ禍による対策は抜きにして書かせていただきます。） 私は社会人経験の学生です。出身大学では研究室で論文や書籍を通して学びを深めたり、学生や教授と意見を交わすことで自分自身の足りなさに気付かされ、教わり、考えを深めて新たな実践につなげたり、といった貴重な経験をさせていただきました。私にとって大学とは、縦断的、そして横断的に学びを深める場所です。「自宅で自宅学習」することは、大人であれば当たり前とも捉えることができます。しかし、この大学にある魅力的な資料、書籍、検査道具、様々な貴重な道具に直に触れ、この手に残る感触を持って取り組みたい時に、大学の閉館ではどうしようもありません。 「（開館日の）時間を上手に使う」「手際良く、段取りよく進める」「開館時間の中でうまくやりくりする」そういった力を育むことも大切です。 そうなりなさい、というメッセージであれば、私の努力不足であり、考え直します。 一方で【実習や実践に臨めるようにするには】【国家試験の対策として、学ぶ時間の確保】【慣れた集中できる環境が欲しい】など、（学生個人の状況によって違いますが）こうした目的を達成するための手段の一つとして、日曜日の開館は必要だと考えます ２月、本大学として初のST国家試験を先輩方が受験しますが、良い結果になってほしいという私自身の思いとともに、自分たち含め今後の入学するであろう学生もが良いリハビリ専門職になると考える時、学ぶ環境を整える大学の役割は大きいと考えます。 どうか、御一考の程をお願いいたします。
	5	教室と廊下が寒過ぎる。他学科がラウンジにたむろしていて感染症対策が不安。
	6	教室の清掃をきちんと行ってほしい。
	7	教室欲しい。
	8	エアコンの効きが悪い。学生窓口を朝９時３０分開始にしてほしい。
	9	また、今年度の後期の整形外科学Ⅱの授業は一回分行われていないのですが、こちらはお金を払って授業を受けているのに、授業が行われなかったのはおかしくないですか？一人の生徒が担当教員に指摘したにも関わらず、その件について無視され連絡が来ていました。
	10	体育館の床がとても滑る
	11	未だに授業の休講や、テストの期間などの連絡が遅いのを改善してほしいです。
2 食堂・ラウンジ・売店等	1	食堂でIC系を導入して欲しい。食堂で回数券（例えば、日替わりランチ10枚3千円2ヶ月以内）を作成して欲しい。
	2	現状、食堂や売店が人数に対して不十分のため、増員する今後はより学生が困ることが増えると思う。この2年間でも、食堂に空席が無い、メニューが売り切れているというのを何度も経験した。今後の学生たちのために、弁当やパン類の販売をラウンジでして欲しい。宜しく御願い致します。
	3	食堂を広くして欲しい。
	4	自販機に紙パックジュースを置いて欲しい。
	5	近くにコンビニもないため、文具も軽食も買うのが難しく、お金を崩すのにも苦労します。校内に売店が欲しいです。
	6	生協や売店があると嬉しいです。筆記用具やファイルの購入など急遽必要なものが買えるところが近くにないので。
	7	学食の栄養バランスを考えてほしい。
	8	生協や売店があると嬉しいです。筆記用具やファイルの購入など急遽必要なものが買えるところが近くにないので。
	9	食堂とラウンジは規模が小さい。昼休みに昼食が売り切れているのは?と思う。特にコロナ問題が出てきてからは、非常に利用が怖かった。
	10	来年からもう1学年増えるので、食堂とラウンジだけでは休憩や食事場所が狭いので、部屋を増やしてほしいです。
3 情報処理室・ポータル	1	情報処理室のパソコン、WiFi環境
	2	スムーズに立ち上がるパソコンと情報処理機器のメンテナンス専門の担当者。
	3	情報室のプリンターがいつも壊れている。プリント出来ない。パソコンの起動が重すぎる。暖房がきかなすぎる。
	4	どのパソコンを使ってもちゃんと印刷できるようにして欲しい、あまりにも使い勝手が悪すぎる。
	5	情報処理室のパソコンは動作が遅く、まともに印刷等の操作ができないので改善をしてほしいです。
	6	情報処理室のパソコンの速度を上げてほしい。結構時間が取られます。
	7	情報処理室のコピーができない状況があることを減らして欲しい。
	8	情報処理室での資料印刷ができないことが多いので困ることが多い。また、WiFiがはじめのパスワード入力しなくてよくなってから、 Googleなどのインターネットが接続できなくなって、困っている。
	9	情報処理室のPCの立ち上げに時間がかかりすぎる、プリンターが使えない時がある。
	10	情報処理室のパソコンの起動が遅かったり、プリンターの調子が悪い時が多いので困ります。
	11	Wi-Fiが弱い場所があって、すぐに切れる。情報処理室のパソコンで資料をプリントアウトしようと思っても、できないことがあるので、何台もパソコンを起動して、その日使えるものを見つけないといけない。
	12	パソコンどうにかしてください。印刷枚数制限なくしてください。勉強できません。
	13	情報処理室のPCの起動が遅く、授業前に印刷…等間に合いません。また、印刷にカラー選択はないため、授業内容によっては、資料の色が分からず 困る場合があります。もう少しいろいろとネット環境が改善されるといいなと思います。
	14	情報室のパソコンが立ちあがるのに時間がかかりすぎるので新しいものに変えて欲しいです。
	15	Wi-Fiのログインを毎日しなくていいようにして欲しい。
	16	パソコンがとにかく使い物にならない。
	17	コピー機を置いてほしい。
	18	情報室のパソコンが立ちあがるのに時間がかかりすぎるので新しいものに変えて欲しいです。
	19	情報室の印刷機の不具合が放置されていること。
	20	情報処理室はストレスが溜まってしまうので、結局ほぼ利用しなかった。
	21	情報処理室のパソコンは動作が遅く、まともに印刷等の操作ができないので改善をしてほしいです。
	22	情報処理室のPCが遅すぎるので新しいPCに更新してほしい。
	23	せめてもう少しパソコンの立ち上がりが早ければ。用紙切れ、プリンタの不調など調子が悪い事が多く、データのプリントも休み時間内に行えない ことが多かった。
4 新型コロナウイルス感染対策	1	コロナが増加している状況で、学校が対策しているからと言って授業や試験を対面で行うのはどうかと思います。マスクなど必ずしていますが、通勤ラッシュに電車やバスに乗って学校に行くため密は避けられません。学生の通学面も考えて判断して欲しいです。
	2	他学科がラウンジにたむろしていて感染症対策が不安。
	3	コロナは年末ごろから、感染が拡大した始めたにも関わらず、中途半端な感染対策で対面授業を続け、緊急事態宣言が出てから徹底しても遅いと思いますし、学年学科ごとに昼食を食べる教室をわける等の対策ができたと思います。
	4	テスト期間も2年生と1年生で午前と午後で分けてますが、2年生を午前にするということは、電車通学やバス通学の人は朝の通勤ラッシュに巻き込まれて満員電車に乗るなど、密を避けることはできないと思います。政府は時差通勤を推奨しているのに、なぜ私たちは感染リスクが高まる方に向かわないといけないのですか？正直満員電車に乗って行くのはとても不安です。そういったことも、考えての対応なのですか？
	5	2年生を始めの週の午後にテストを行い、次の週の午後に1年生がテストを行うという対応はできなかったのですか？感染者が出てからは遅いと思います。対面で行っていくなら、感染対策を徹底してください。

卒業時アンケート報告

2020年度　卒業時アンケート集計結果

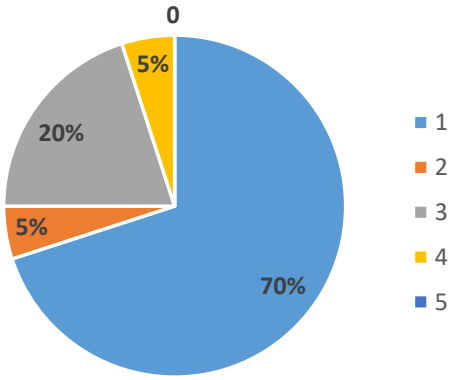
問１　**所属を選んでください**

回答	人数
1.言語聴覚専攻科	20
計	20



問２　**大学生活において「生命の尊厳・生命の平等」の意義を考え実感する機会がありましたか。**

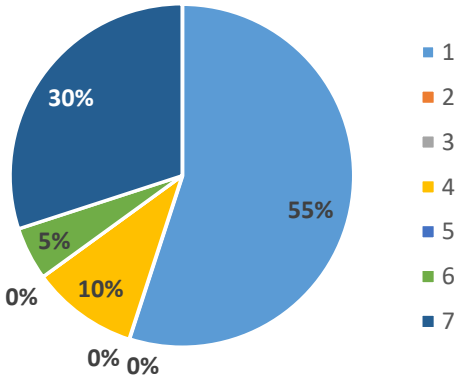
回答	人数
1.はい	14
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	4
4.わからない	1
5.無記入	0
計	20



問３　**問２で「はい」と答えた人におたずねします。**
実感する機会を与えたのは次のうちどれですか。

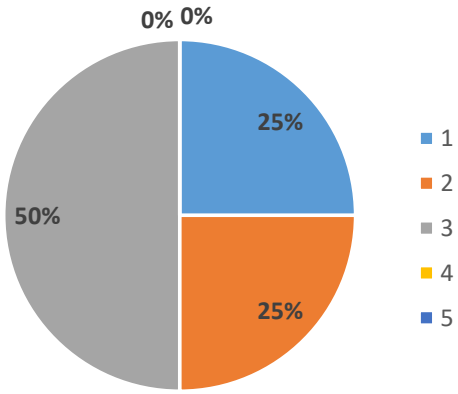
回答	人数
1.学科・専攻の授業（実習含む）	11
2.大学行事（運動会、大学祭、など）	0
3.部・サークル活動	0
4.地域交流(ボランティア、地域のイベントなど)	2
5.アルバイト	0
6.その他	1
7.無記入	6
計	20

※その他…家庭の事情



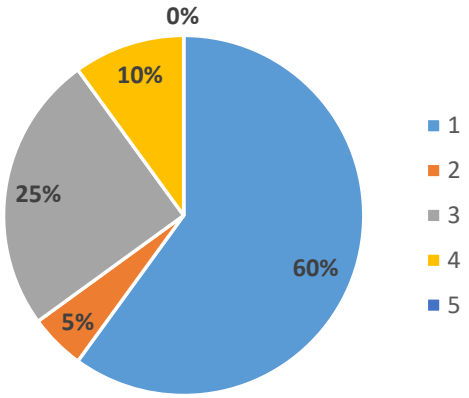
問４　**入学時と比べて、ニュースや新聞をみるなどの機会が増えましたか？**

回答	人数
1.はい	5
2.いいえ	5
3.どちらともいえない	10
4.わからない	0
5.無記入	0
計	20



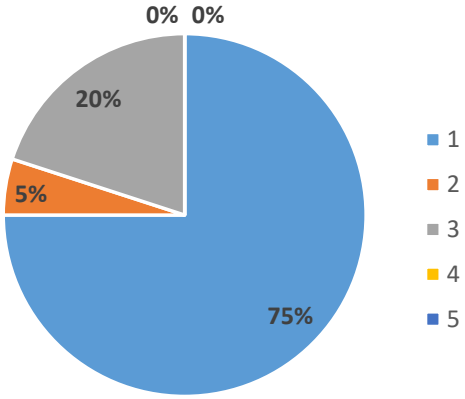
問５　**今社会で起こっている問題に、専門職としてどんな貢献ができるか具体的に考えられるようになりましたか？**

回答	人数
1.はい	12
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	5
4.わからない	2
5.無記入	0
計	20



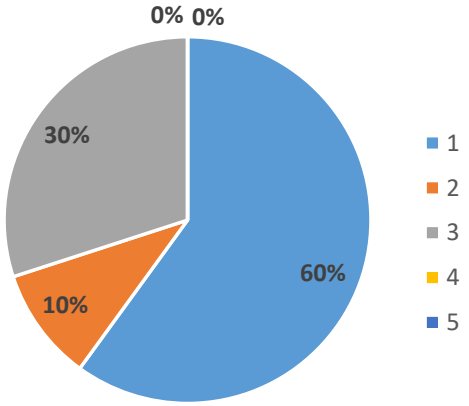
問６　**入学時と比べて、専門的能力や技術力、実践力を身につけることへの意欲は強くなりましたか？**

回答	人数
1.はい	15
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	4
4.わからない	0
5.無記入	0
計	20



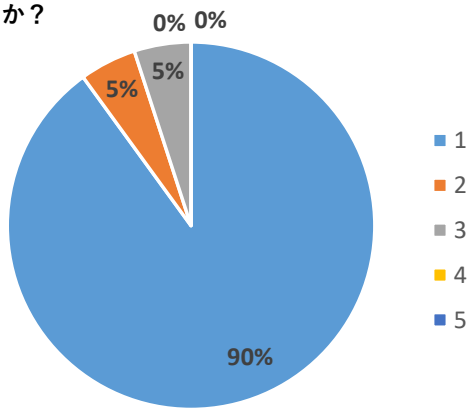
問７　**入学時と比べて、他の人に協力してくれるように働きかけたり、目標の実現のために共に実行することが出来るようになりましたか？**

回答	人数
1.はい	12
2.いいえ	2
3.どちらともいえない	6
4.わからない	0
5.無記入	0
計	20



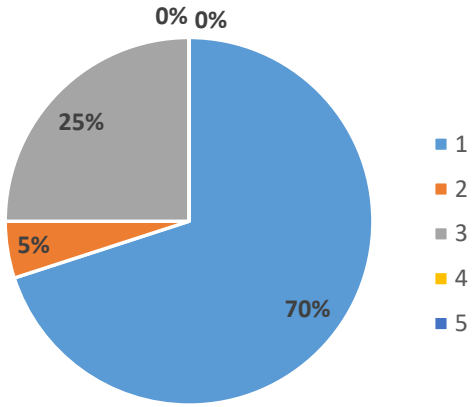
問８　**入学時と比べて、他の医療職との連携の大切さの理解が深まりましたか？**

回答	人数
1.はい	18
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	1
4.わからない	0
5.無記入	0
計	20



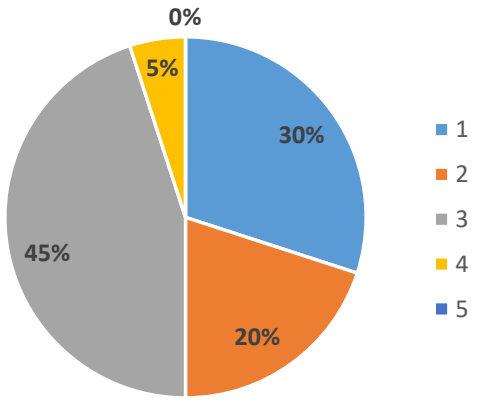
問９　**実習や国家試験勉強など大学入学前には未経験なことがありましたが、問題を自ら発見し、それを解決するための必要な方法を模索することが出来るようになりましたか？**

回答	人数
1.はい	14
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	5
4.わからない	0
5.無記入	0
計	20



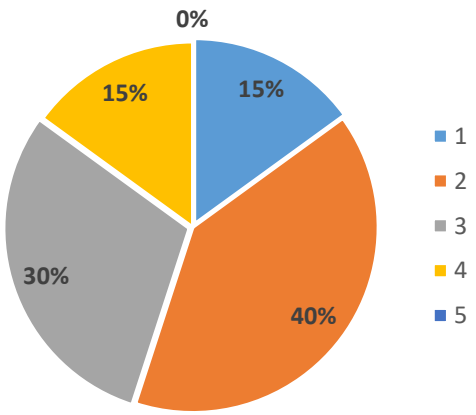
問１０　**入学時と比べて、国際的な視野が広がったと思いますか？**

回答	人数
1.はい	6
2.いいえ	4
3.どちらともいえない	9
4.わからない	1
5.無記入	0
計	20



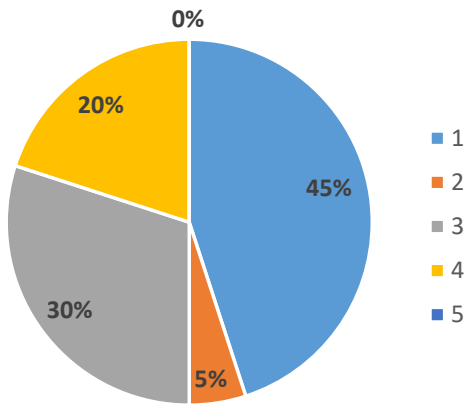
問１１　**入学時と比べて、他国の医療についての知識が増えたと思いますか？**

回答	人数
1.はい	3
2.いいえ	8
3.どちらともいえない	6
4.わからない	3
5.無記入	0
計	20



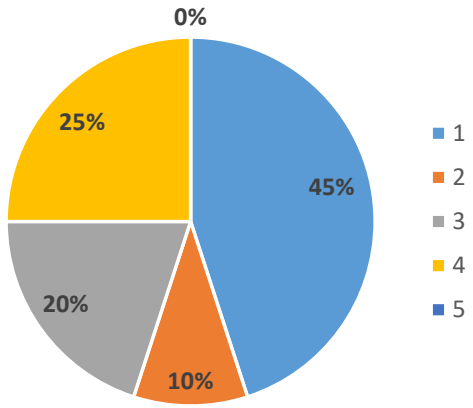
問１２　**本学の国家試験対策は十分でしたか？**

回答	人数
1.はい	9
2.いいえ	1
3.どちらともいえない	6
4.わからない	4
5.無記入	0
計	20



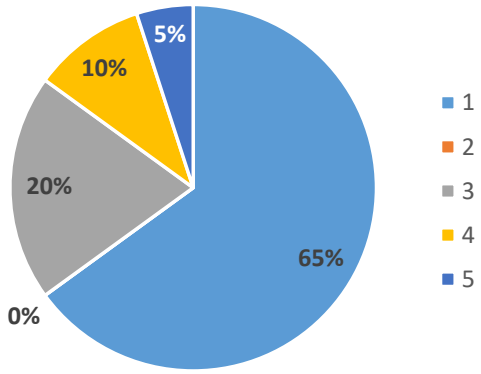
問１３　本学の就職・進学に対する支援は十分でしたか？

回答	人数
1.はい	9
2.いいえ	2
3.どちらともいえない	4
4.わからない	5
5.無記入	0
計	20



問１４　福岡国際医療福祉大学に入学してよかったと思いますか？

回答	人数
1.はい	13
2.いいえ	0
3.どちらともいえない	4
4.わからない	2
5.無記入	1
計	20



福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程

福岡国際医療福祉大学自己点検・評価委員会規程

第１条　福岡国際医療福祉大学学則第２条及び第１６条に基づき、本学に自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第２条　委員会は、本学における教育研究活動等の状況に関する自己点検・評価について、次の各号に掲げる事項を行う。

一　自己点検・評価の方針の策定に関すること。

二　自己点検・評価の実施に関すること。

三　自己点検・評価の報告書の作成及び公表に関すること。

四　その他自己点検・評価についての連絡調整に関すること。

第３条　委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一　　学長

二　　副学長

三　　学部長

四　　副学部長

五　　学科長

六　　専攻科長

七　　教務委員長

八　　図書館長

九　　理事の中から理事長が指名した者

十　　事務部長

十一　その他学長が必要と認めた者

２　自己点検結果の評価を行う場合は、前項の委員のほか学外の有識者若干名を加えることができる。

第４条　委員の任期は１年とし、再任を妨げない。

２　前項の場合、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

３　委員は理事長が委嘱する。

第５条　委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

２　委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

３　委員会に副委員長を置き、学長が指名する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

第６条　委員会に、必要に応じ小委員会を置くことができる。

２　小委員会に関する事項は、委員会において別に定める。

第７条　委員会の事務は総務課で処理する。

第８条　この規程の改正は、理事会の議決を経て行う。

附　則

この規程は、平成３１年４月１日から施行する。

2020年度自己点検・評価委員会委員名簿

2020年度自己点検・評価委員会委員名簿

<table>
<tr><th>役職</th><th colspan="2">所属</th><th>役職</th><th>氏名</th></tr>
<tr><td>委員長</td><td colspan="2"></td><td>学長</td><td>今泉　勉</td></tr>
<tr><td>副委員長</td><td colspan="2"></td><td>副学長</td><td>丸山　仁司</td></tr>
<tr><td rowspan="5"></td><td rowspan="3">医療学部</td><td>理学療法学科</td><td>学科長</td><td>柊　幸伸</td></tr>
<tr><td>作業療法学科</td><td>学科長</td><td>北島　栄二</td></tr>
<tr><td>視能訓練学科</td><td>学科長</td><td>吉冨　健志</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語聴覚専攻科</td><td>専攻科長</td><td>平島　ユイ子</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務部</td><td>事務部長</td><td>寺田　浩一</td></tr>
</table>

福岡国際医療福祉大学
2020 年度　自己点検・評価報告書

2021 年 6 月発行

〒814-0001　福岡県福岡市早良区百道浜 3 丁目 6-40

学校法人高木学園

福岡国際医療福祉大学（発行・編集）
ＴＥＬ：092－832－1200
ＦＡＸ：092－832－1167